

# 2022年3月期 決算説明会



2022年5月24日  
株式会社 千葉銀行

(東証プライム市場：8331)

## 目次

## 業績の概要

業績概要①～③	3-5
資金利益	6
預金・貸出金	7
貸出金の状況①②	8-9
有価証券	10
金利上昇の影響①②	11-12
役務取引等利益	13
経費	14
与信関係費用	15
コロナ影響・ウクライナ情勢の影響等	16
業績計画	17
資本政策	18

## 中期経営計画

中期経営計画の概要	20
中期経営計画の進捗	21

## DX戦略

DX戦略全体像	23
ムーンショット目標①～③	24-26
非金融サービス	27
地域エコシステム	28-30
パーソナライズ	31
新事業	32
DX人材	33

## 各種施策

個人①～③	35-37
法人①～④	38-41

## 提携戦略

T S U B A S Aアライアンス	43
千葉・武蔵野アライアンス/千葉・横浜パートナーシップ	44

## サステナビリティ

持続的経営の実現に向けて	46
これまでの取組み・外部評価	47
脱炭素社会の実現に向けて	48
サステナブル・ファイナンス	49
E ～気候変動への対応～	50
S ～ダイバーシティ・地方創生～	51
G ～ガバナンス～	52

## 資料

千葉県について	54
千葉県内シェア・世界の銀行との比較	55

## 業績の概要

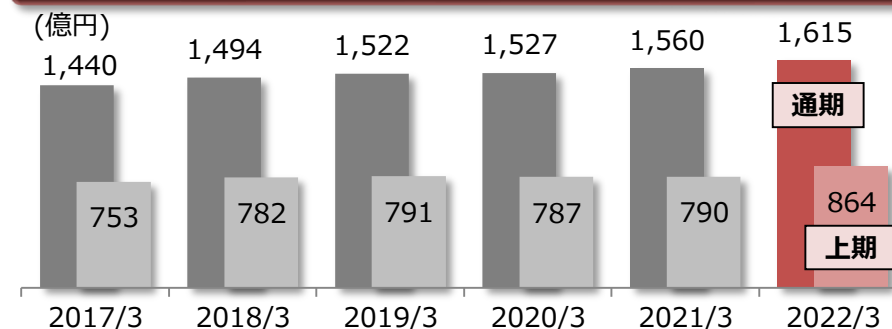
## 業績概要①

単体	(億円)	2021/3	2022/3	前期比	
		業務粗利益	1,560	1,615	54
資金利益	1,245	1,318	72	P.6	
役務取引等利益	261	275	13	P.13	
特定取引利益	17	11	△ 6		
その他業務利益	35	10	△ 24		
うち債券関係損益	△ 3	△ 14	△ 10		
経費 (△)	860	845	△ 14	P.14	
実質業務純益	700	769	69		
コア業務純益	703	783	80		
除く投資信託解約損益	662	751	89		
一般貸倒引当金純繰入額 (△)	32	15	△ 17		
業務純益	667	754	86		
臨時損益	△ 25	△ 17	7		
うち不良債権処理額 (△)	71	56	△ 15		
うち株式等関係損益	58	27	△ 31		
経常利益	642	736	94		
特別損益	△ 3	△ 3	△ 0		
当期純利益	456	523	66		
与信関係費用 (△)	104	71	△ 32	P.15	
連結	(億円)	2021/3	2022/3	前期比	
連結経常利益	718	788	70		
親会社株主に帰属する当期純利益	496	544	48		

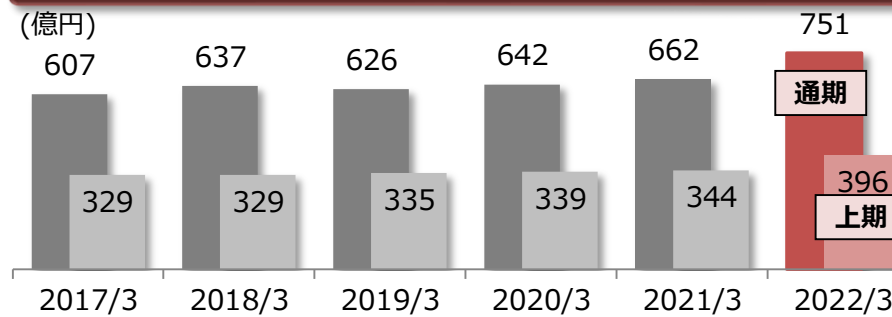
## 2022年3月期 決算のポイント

- ◆ 資金利益が前期比+72億円と10年ぶりの高水準であり、役務取引等利益は同+13億円と過去最高を更新、業務粗利益は同+54億円と5期連続増益
- ◆ 新本店ビル関連費用の減少を主因に経費は同△14億円
- ◆ 投信解約損益を除くコア業務純益は同+89億円と3期連続増益であり、本業収益の好調を維持
- ◆ 与信関係費用は同△32億円と減少し、計画100億円対比でも抑制
- ◆ 単体の当期純利益は2016年3月期(525億円)以来過去2番目の高水準であり、連結も2期連続増益となり計画520億円対比で上振れて着地

## 業務粗利益



## 投信解約損益を除くコア業務純益

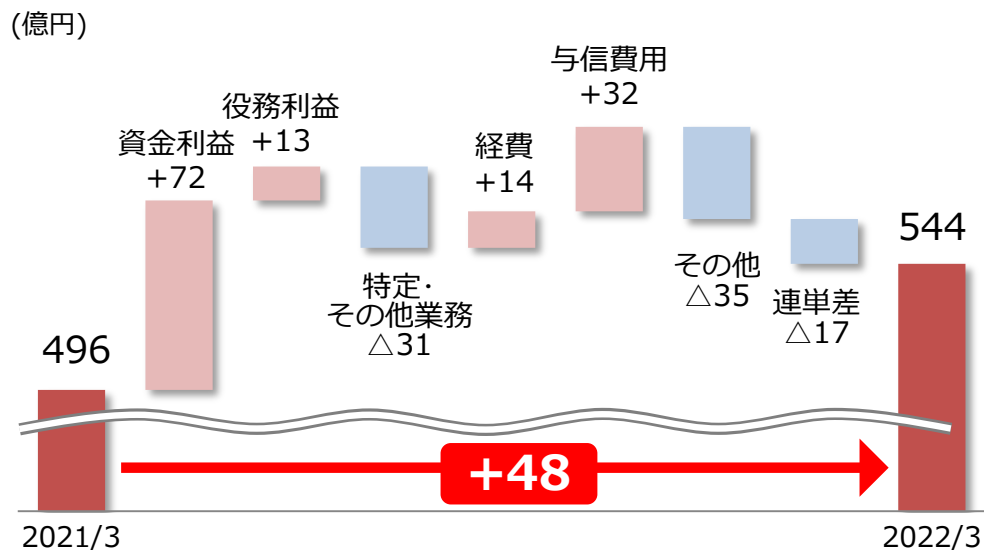




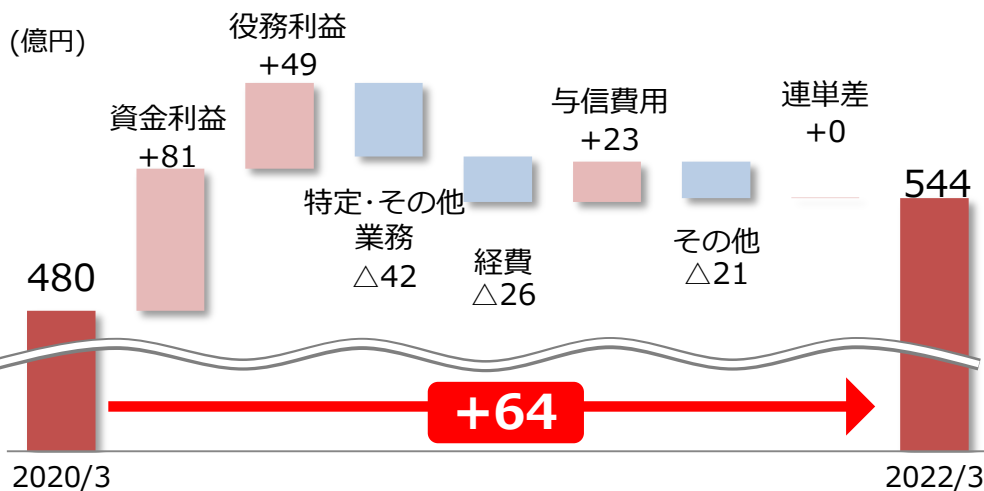
# 業績概要②

## 親会社株主に帰属する当期純利益の増減要因 (単体+連単差)

### 2021年3月期比 (前期比)

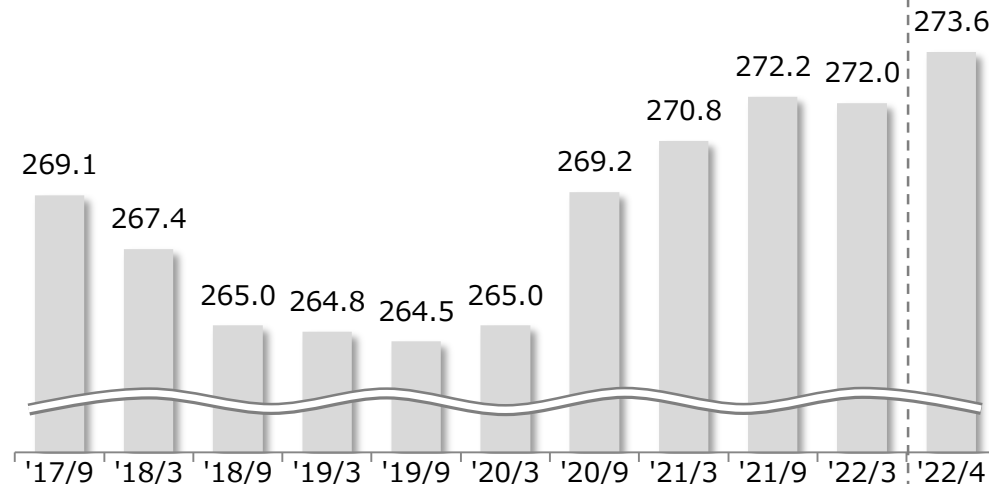


### 2020年3月期比 (コロナ前との比較)



## 円貨貸出金 1日当たり資金利益 (単体)

(百万円)



## 日銀「地域金融強化のための特別当座預金制度」の付利見込

	'21/3期		'22/3期		'23/3期		'24/3期		'25/3期	合計
	上	下	上	下	上	下	上	下		
要件対象期間	← ① →		← ② →		← ③ →					
付利期間			← ① →		← ② →		← ③ →			
①: 充足 ②: 充足見込 ③: 計画を達成すれば充足見込										
付利額	付利額 (億円)									
①②③達成				17	9	9	10	10	10	68
①②達成				17	9	9	10			48

※該当期の受取額を記載。

## 業績概要③

## ～ 連結決算・子会社の状況 ～

～未来へ、つながる・超える～

連結	(億円)	2021/3	2022/3	前期比
		連結粗利益	1,678	1,719
資金利益	1,215	1,280	65	
役務取引等利益	368	386	18	
特定取引利益	59	41	△ 18	
その他業務利益	35	9	△ 25	
営業経費 (△)	939	911	△ 28	
与信関係費用 (△)	106	78	△ 27	
一般貸倒引当金純繰入額 (△)	33	16	△ 16	
不良債権処理額 (△)	72	61	△ 11	
株式等関係損益	58	27	△ 30	
持分法投資損益	3	3	0	
その他	23	27	3	
経常利益	718	788	70	
特別損益	△ 3	△ 4	△ 0	
税引前当期純利益	714	783	69	
法人税等合計	218	238	20	
当期純利益	496	544	48	
非支配株主に帰属する当期純利益	-	-	-	
親会社に帰属する当期純利益	496	544	48	
(参考)				
連結業務純益	784	853	68	

## 子会社の状況

【連結子会社】		(億円)			
会社名	出資割合 (間接含む)	利益項目 (子会社間配当控除後)	2021/3	2022/3	前期比
ちばぎん証券	100%	経常利益	18	10	△ 8
		当期純利益	12	7	△ 4
ちばぎんリース	100%	経常利益	14	11	△ 3
		当期純利益	9	7	△ 1
ちばぎん保証	100%	経常利益	57	51	△ 6
		当期純利益	38	33	△ 4
ちばぎん ジェーシービーカード	100%	経常利益	9	10	0
		当期純利益	6	6	0
その他5社 合計	100%	経常利益	7	7	△ 0
		当期純利益	4	4	△ 0
合計		経常利益	107	90	△ 16
		当期純利益	71	60	△ 10

【持分法子会社】				
6社 合計	持分法に応じた 当期純利益	3	3	0

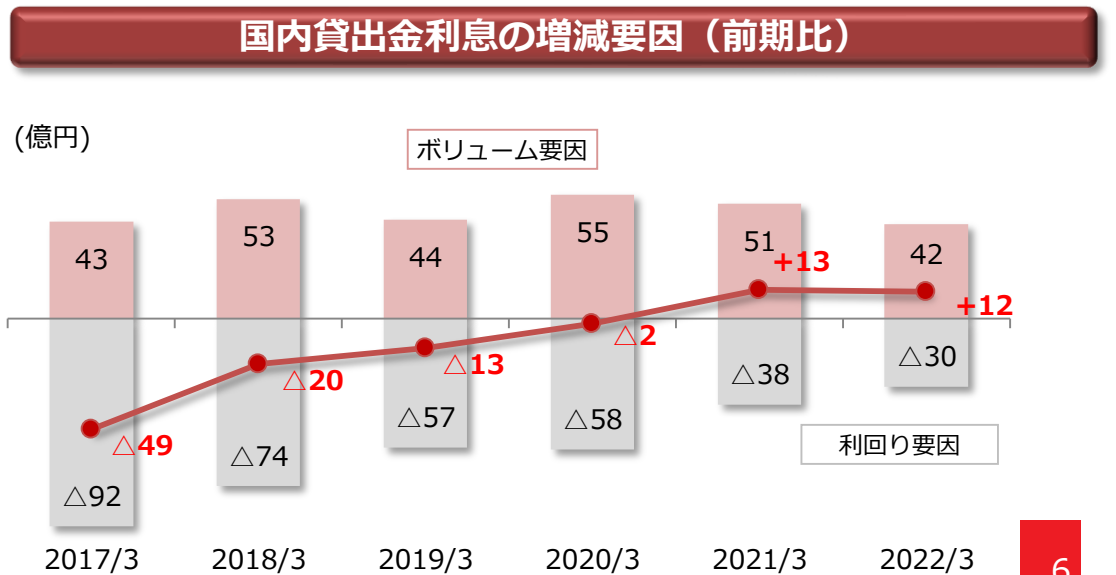
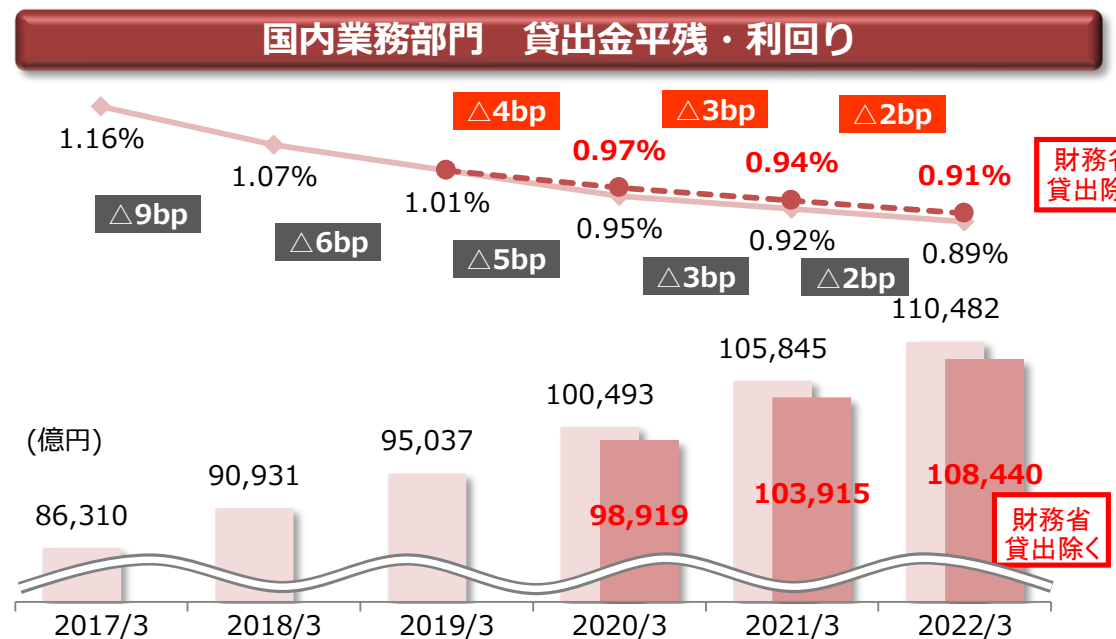
親会社への配当(△)	35	42	7
連単差 ※	39	21	△ 17

※未実現利益等の調整後

## 資金利益

前年度に12年ぶりの反転となった国内業務の貸出金利息は、順調に増加

(億円)	2021/3	2022/3	前期比
資金利益	1,245	1,318	72
国内資金利益	1,187	1,236	49
預貸金利息	971	985	13
貸出金	978	990	12
預金+NCD (△)	6	5	△1
有価証券利息配当金	206	220	14
債券	25	25	0
株式配当金	85	97	12
投資事業組合	△0	6	6
投信	96	91	△4
うち解約益	44	27	△16
その他(市場運用調達等)	9	30	21
国際資金利益	58	81	22
貸出金	55	43	△11
外国証券	113	124	11
外国証券	93	89	△4
外貨ファンド	19	28	8
投信	0	6	6
うち解約益	△2	4	6
その他(調達、市場運用等)	△109	△86	23
資金利益(除く投信解約益)	1,204	1,286	81
投信解約益	41	32	△9

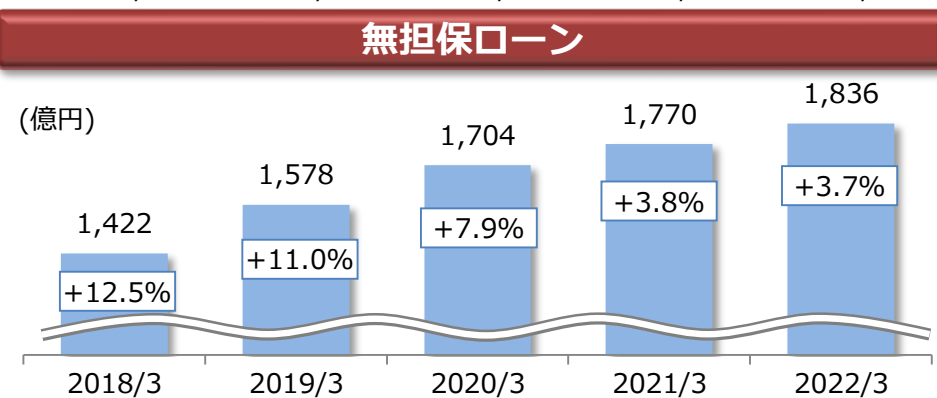
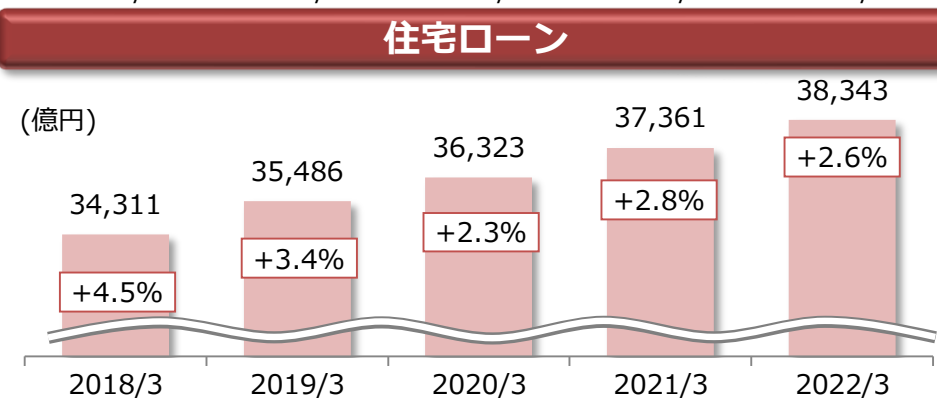
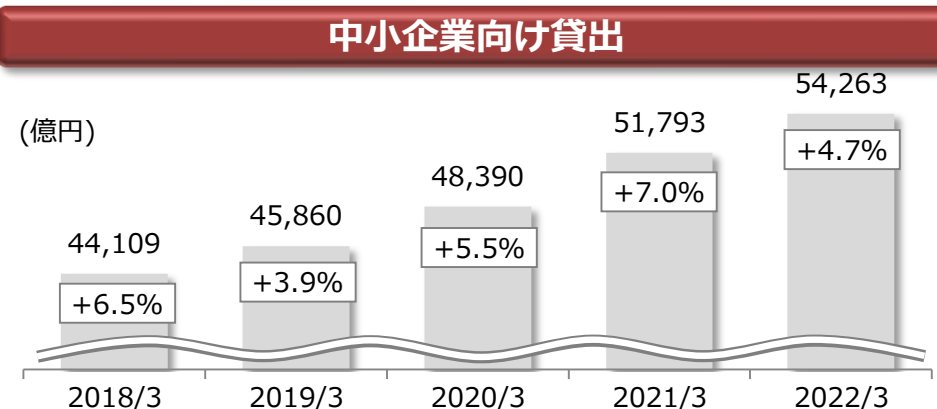


## 預金・貸出金

## 事業者向け貸出、住宅ローン、無担保ローンが順調に増加

(億円)	2021/3	2022/3	前期比	増減率
<b>預金</b>	141,045	147,876	6,831	4.8%
国内預金	138,224	145,211	6,987	5.0%
うち個人預金	100,437	105,353	4,915	4.8%
<b>貸出金</b>	112,064	116,913	4,848	4.3%
国内貸出金	109,626	114,259	4,632	4.2%
除く公共	105,529	109,549	4,019	3.8%
事業者向け	66,325	69,305	2,980	4.4%
大・中堅企業	14,531	15,042	510	3.5%
<b>中小企業</b>	51,793	54,263	2,469	4.7%
消費者ローン	39,204	40,243	1,039	2.6%
うち住宅ローン	37,361	38,343	982	2.6%
うち無担保ローン	1,770	1,836	66	3.7%
公共	4,097	4,709	612	14.9%
国内貸出金	109,626	114,259	4,632	4.2%
除く公共	105,529	109,549	4,019	3.8%
千葉県内店	72,584	74,515	1,930	2.6%
千葉県外店	32,944	35,033	2,088	6.3%
特別店 <sup>(※)</sup>	15,833	16,856	1,022	6.4%
千葉県外リテール店舗	17,111	18,177	1,066	6.2%

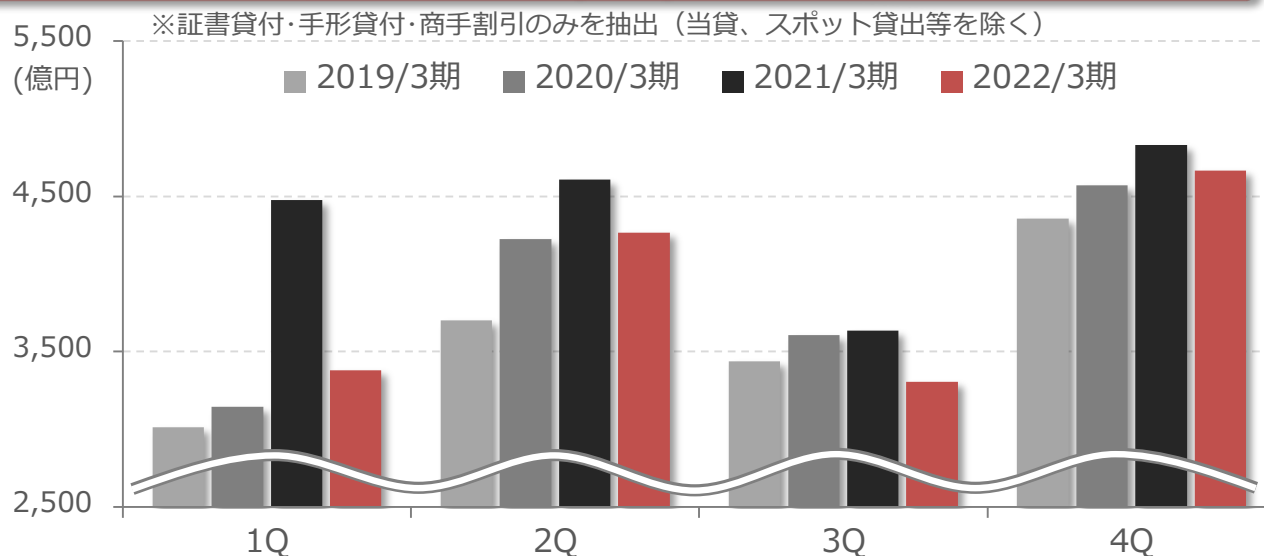
(※) 東京営業部、新宿支店、大阪支店



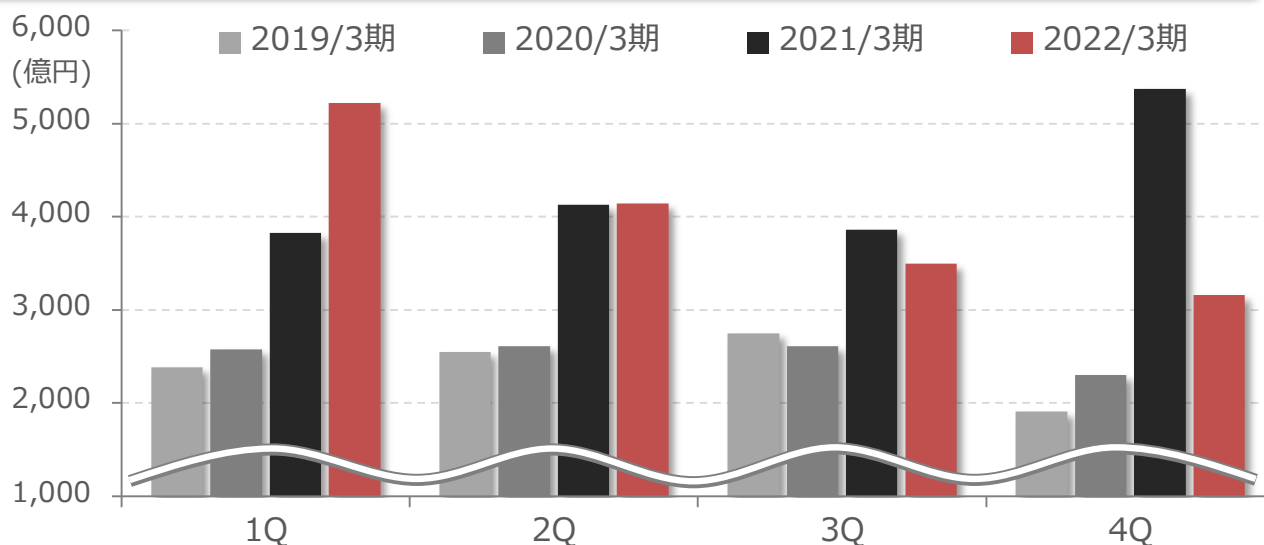
# 貸出金の状況①

## コロナ関連貸出の需要減少後も、事業者向け貸出は順調に増加

### 一般貸出 (円貨) の実行額

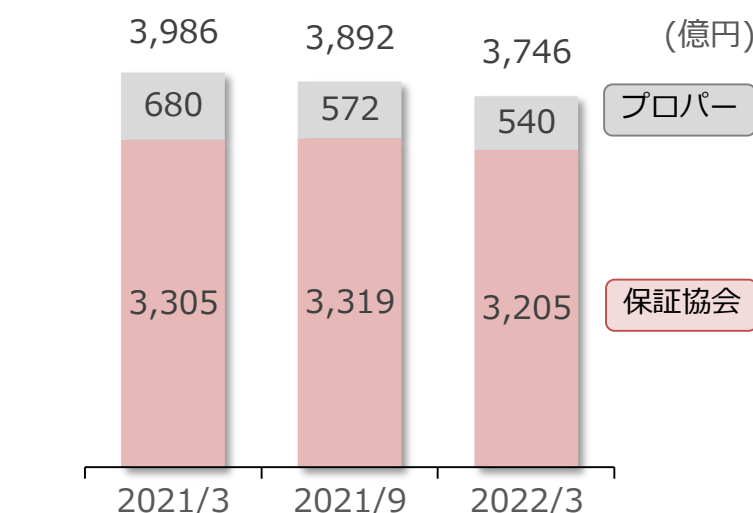


### 一般貸出 (円貨) の未残増加額 (対前年同期比)



### コロナ関連融資 残高

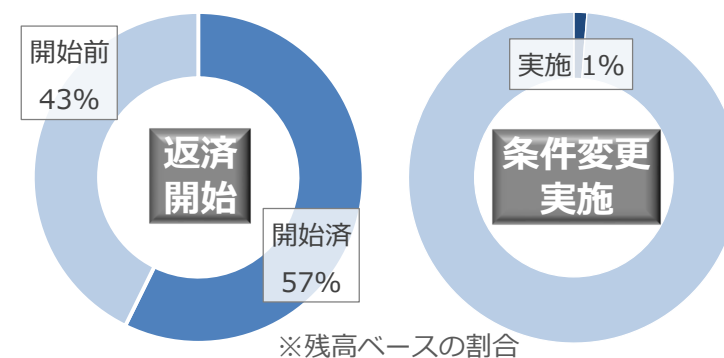
#### 未残



※スポット貸出、当座貸越、コミットメントライン等を除く

### うち、ゼロゼロ融資取組み先の状況

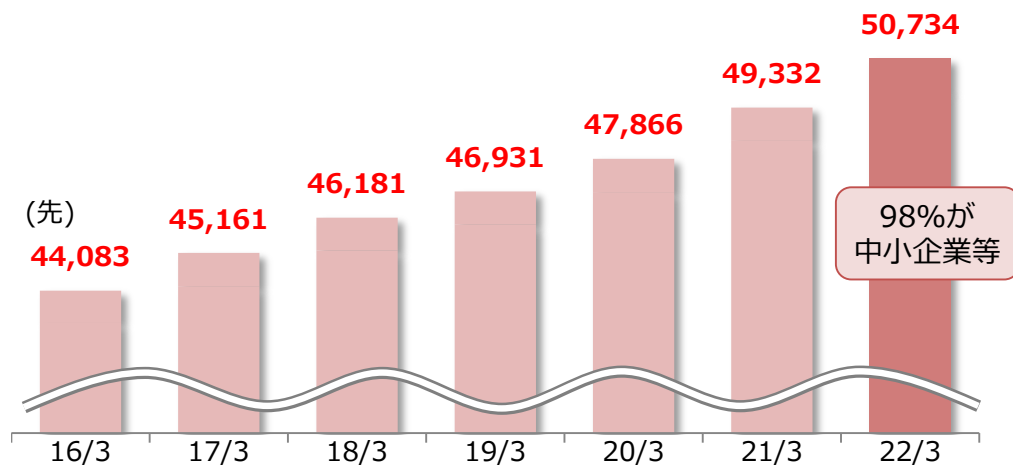
2022/3未残 **2,177億円**



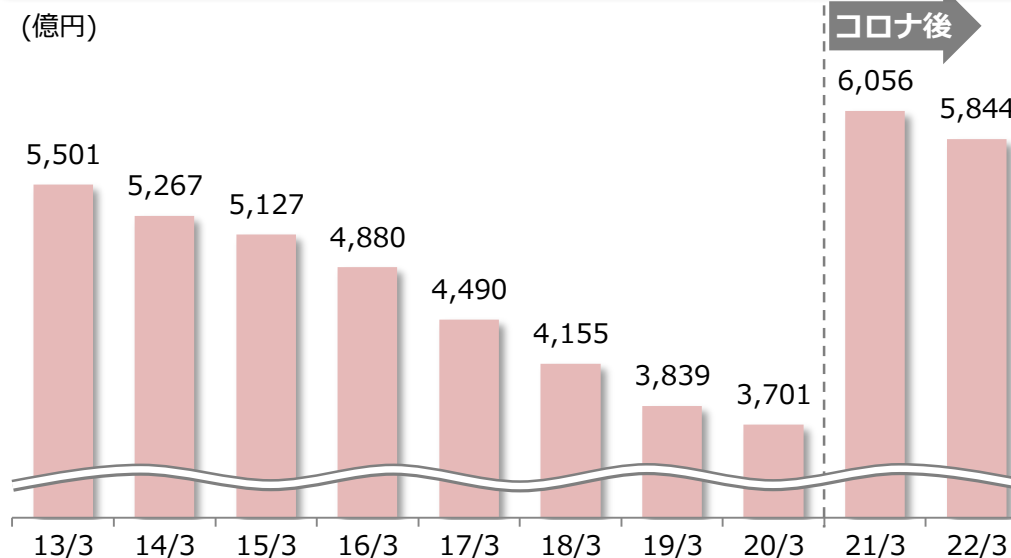
# 貸出金の状況②

## コロナ禍で中小企業の借入ニーズに積極的に対応

### 一般貸出 融資先数 (国内のみ・公共除き)

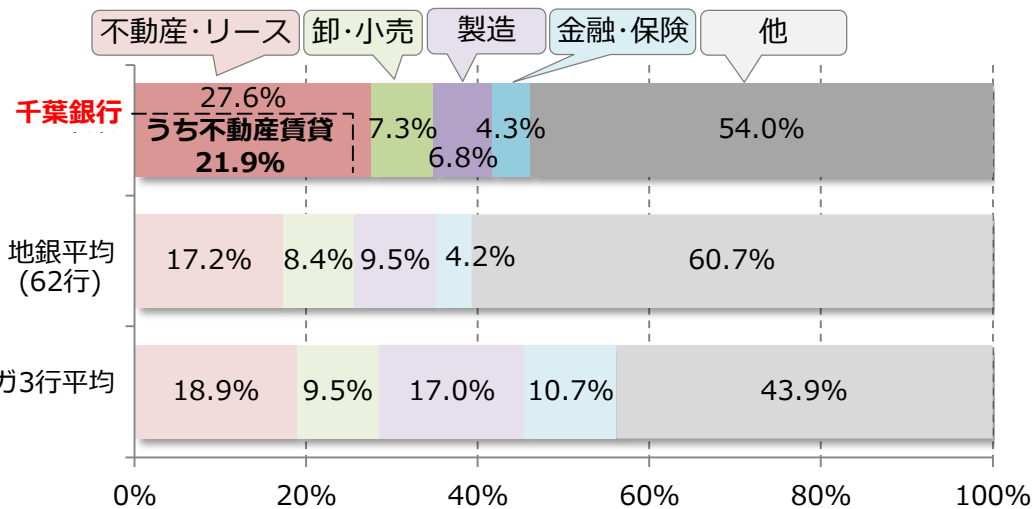


### 保証協会付貸出残高

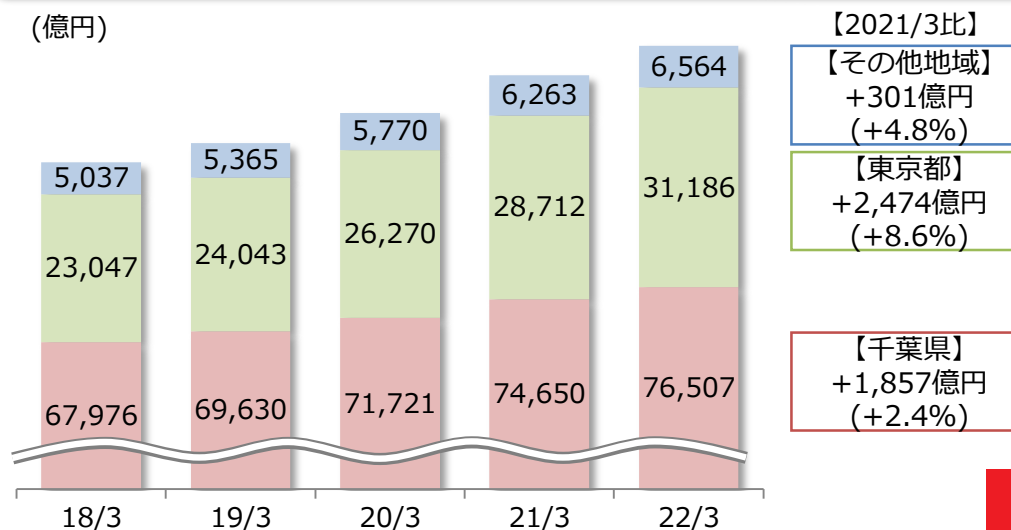


### 業種別 貸出金割合 (2021/9末)

※単体〔出所：ニッキン〕



### 国内貸出 地域別残高



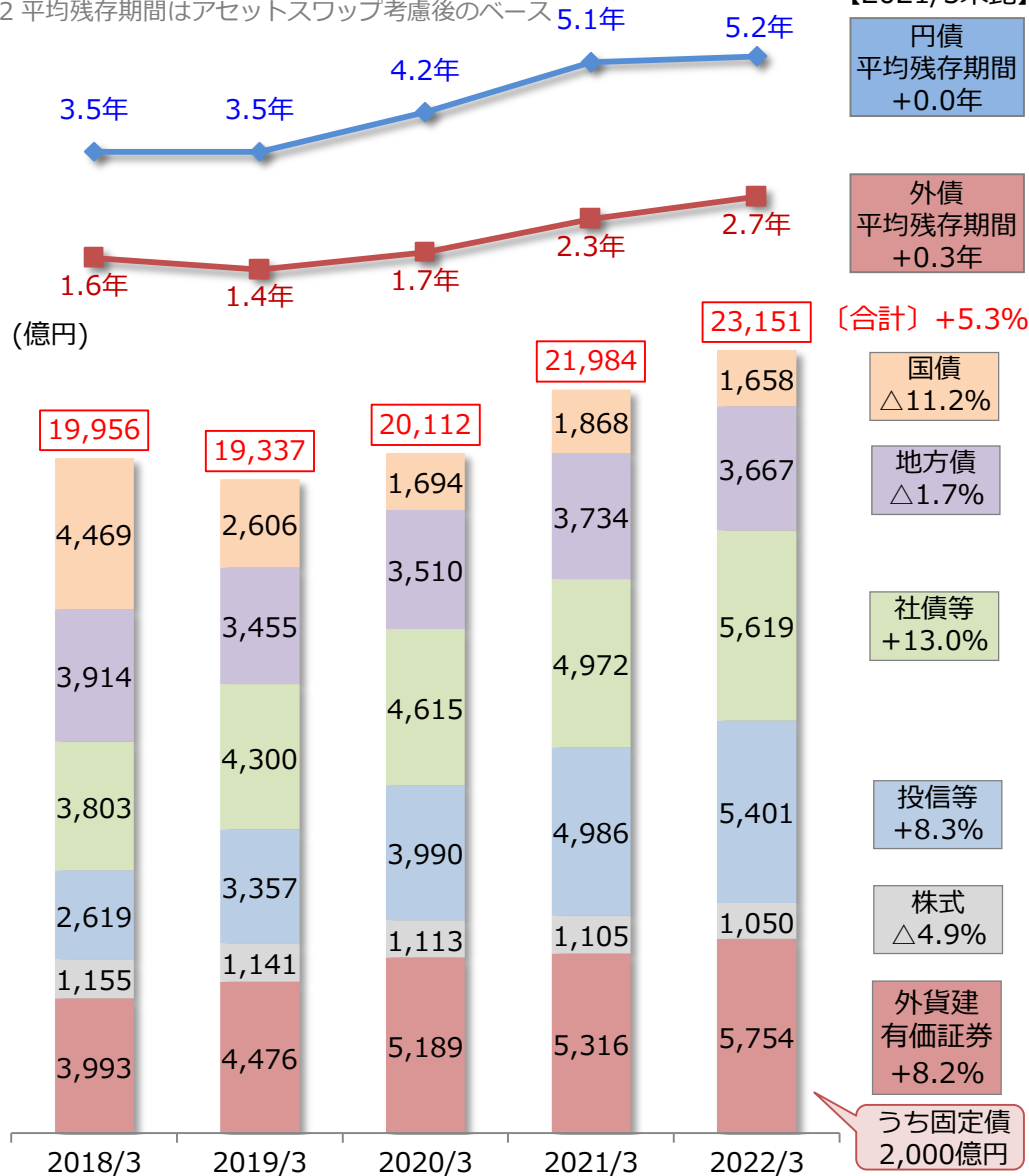
# 有価証券

## リスク分散を基本としたポートフォリオ運営

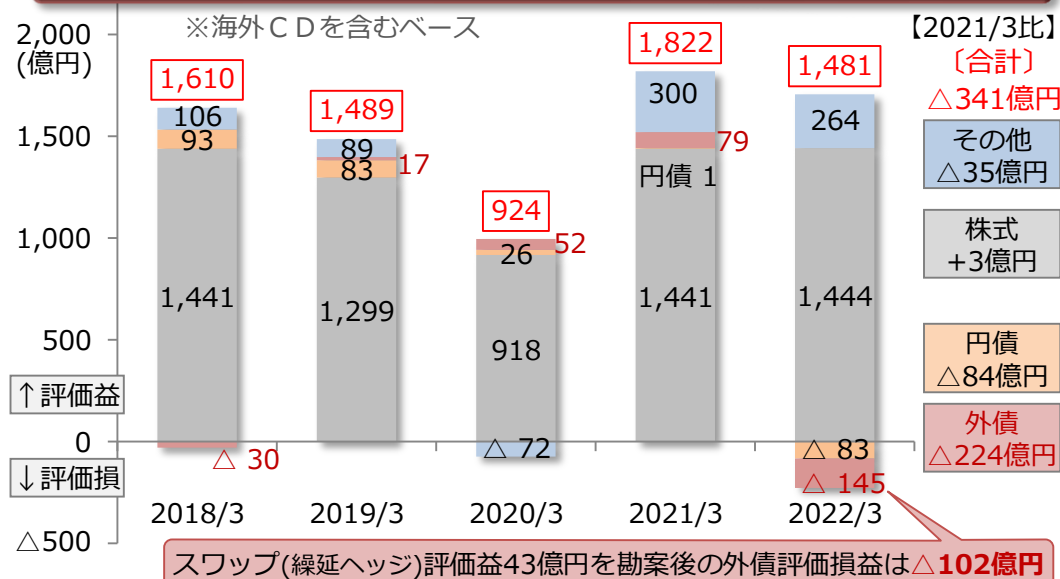
### 有価証券未残※1・平均残存期間※2

※1 未残は評価損益を除くベース

※2 平均残存期間はアセットスワップ考慮後のベース



### その他有価証券評価損益



### 流動性管理の状況

	短期流動性	運用調達構造
バーゼル規制	流動性カバレッジ比率(LCR) [全通貨] <b>177%</b> > 基準100%	安定調達比率(NSFR) [全通貨] ※2021/9基準より適用開始 <b>125%</b> > 基準100%
当行管理	運用調達GAP 調達限度額 米ドルLCR	米ドルNSFR 外貨長期安定調達比率

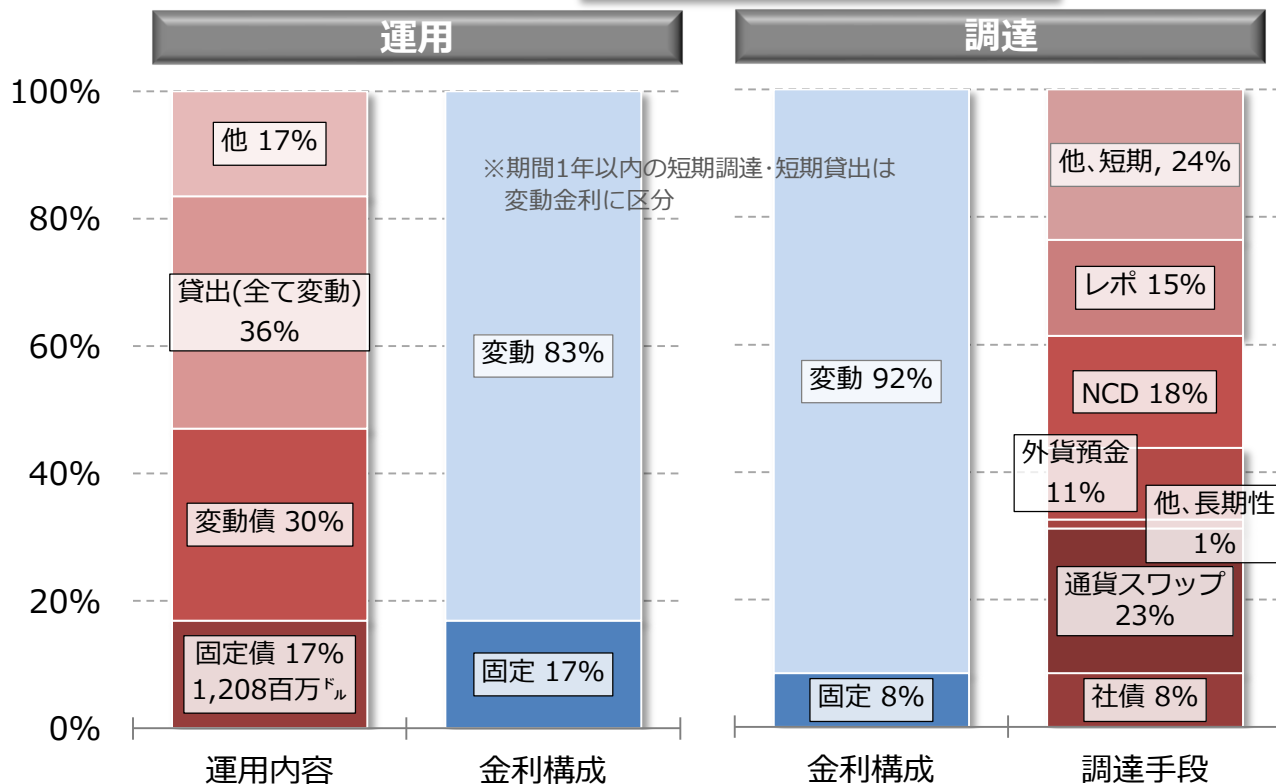
**米ドル債発行 (2021/9)** 発行額: 3億ドル (11倍超の応札あり)  
 年限: 5年  
 利回り: **1.389%** (メガバンク比+7.5~8.5bp)  
 ※米5年債利回り: 2.95% (2022/4末)



海外金利上昇の資金利益への影響は一定程度に抑制

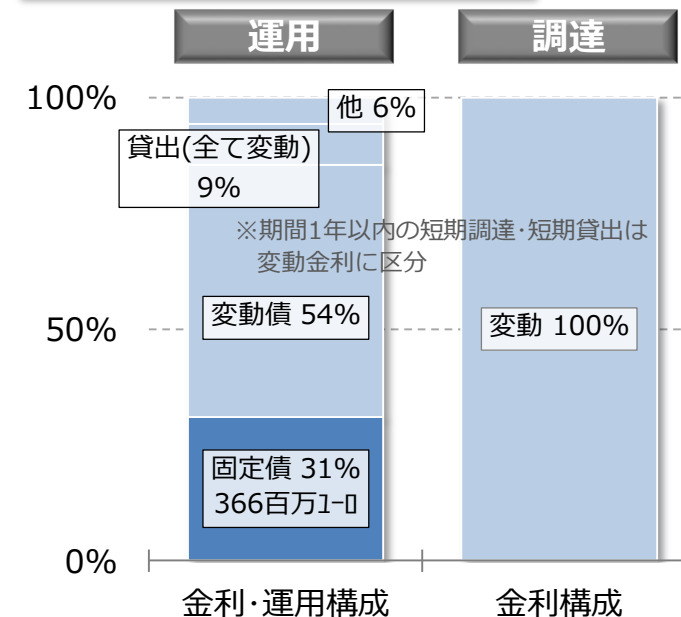
米ドル 運用・調達構造

2022/3末残 7,159百万ドル



ユーロ 運用・調達構造

2022/3末残 1,186百万円



※米ドル・ユーロ以外の外貨建て運用資産は250百万米ドル相当

外貨金利上昇の既存貸出・有価証券への影響(概算)

[金利が平行に10bp上昇した場合の影響]  
 ※2022/3末時点の残高に対する影響。  
 ※米ドル外貨預金金利は70%程度追随する前提で試算。  
 ※金利上昇に伴う信用リスクへの影響は織り込まず。

(億円)	米ドル	ユーロ
資金利益	▲0.4	▲0.4
評価損益	▲14.7	▲5.5
外債	▲9.2	▲3.7
株式・投信	▲5.4	▲1.7

米ドル金利上昇時 外債評価損益変化額

【シミュレーション 前提金利】 (%)

金利期間	1年	3年	5年	7年	10年
3月31日	1.60	2.51	2.46	2.43	2.34
シミュレーション	3.50	3.30		3.00	

変化額合計  
▲56億円

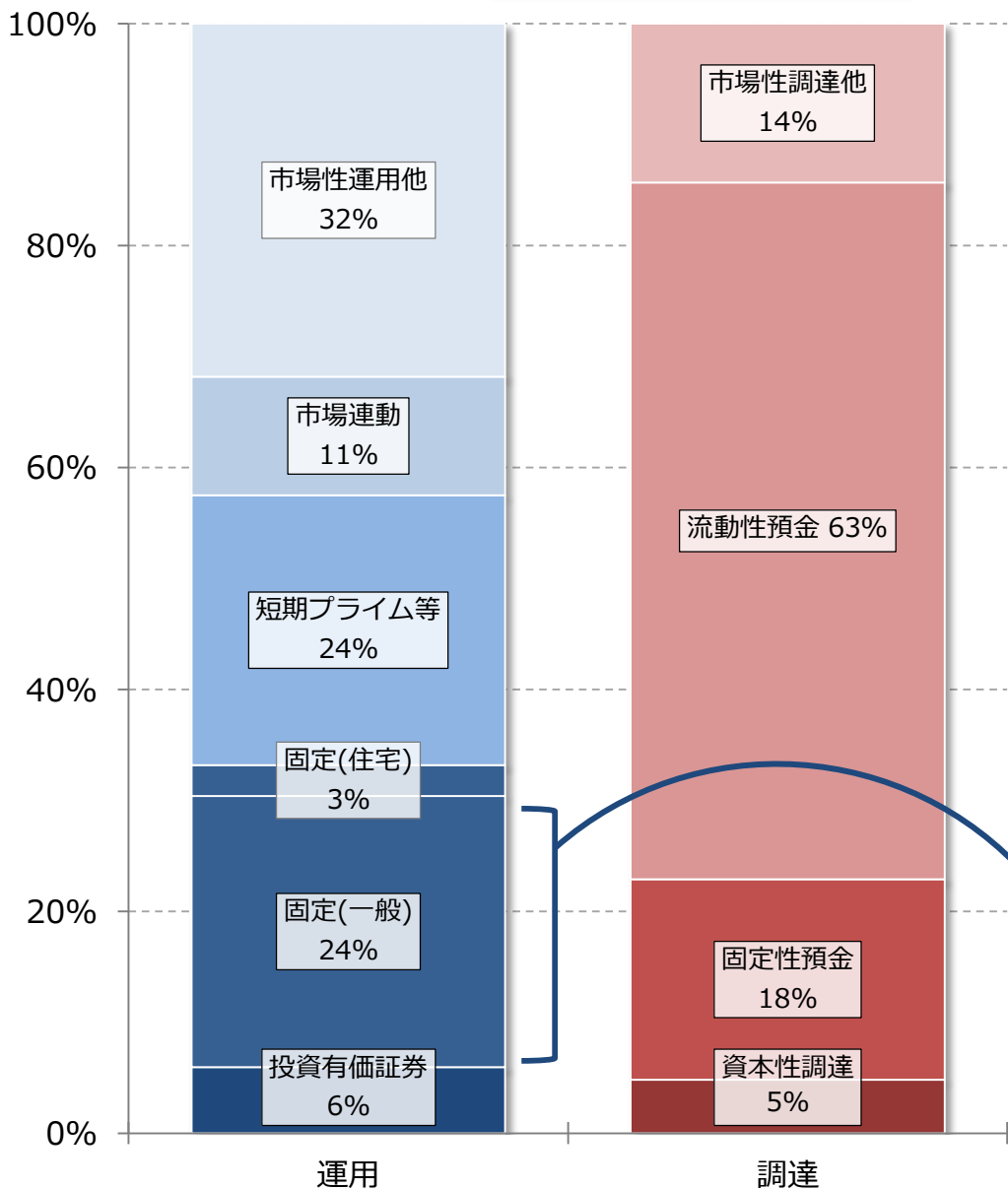
※3月31日時点保有外債への影響額



円金利上昇は、円貨資金利益増加に貢献

円貨 運用・調達構造

2022/3末残 17.8兆円



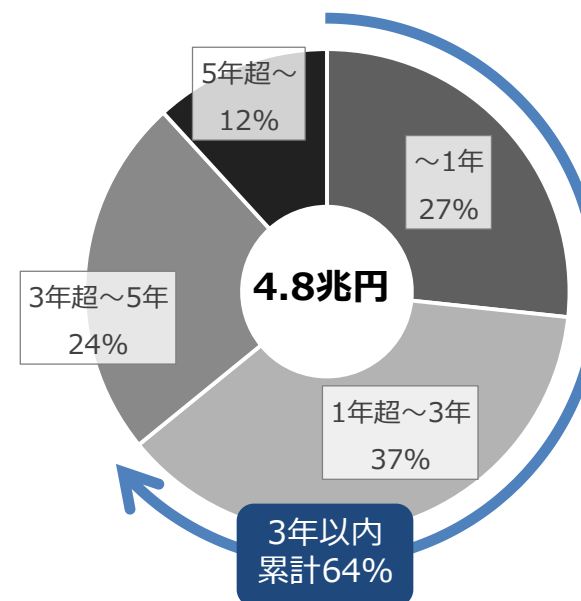
円債 金利期間別感応度

合計 52億円

(億円)

金利期間	～1年	1年超～3年	3年超～5年	5年超～7年	7年超～10年	10年超
10bp	0	6	5	6	18	14

固定(一般)の固定金利期間残存年数

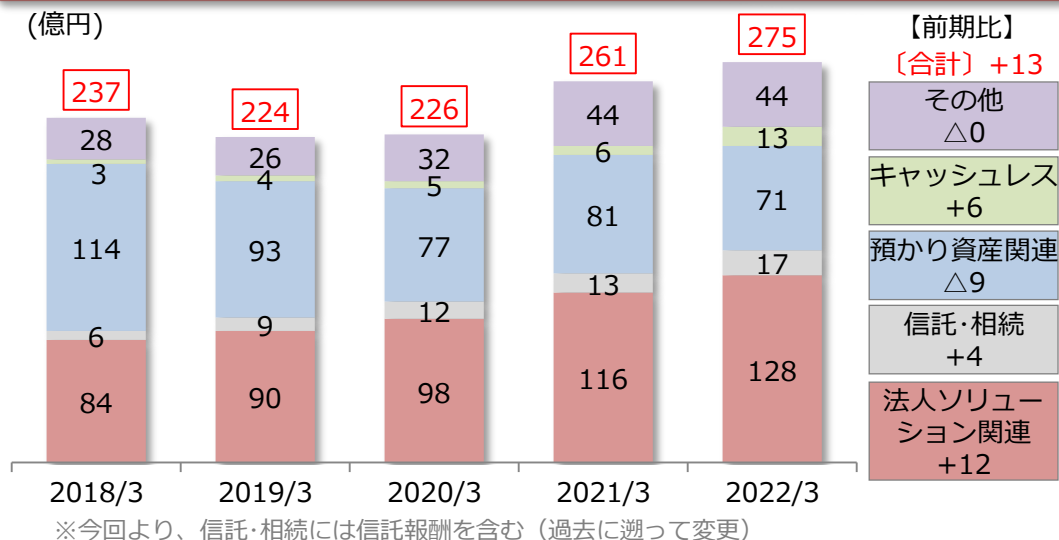


## 役務取引等利益

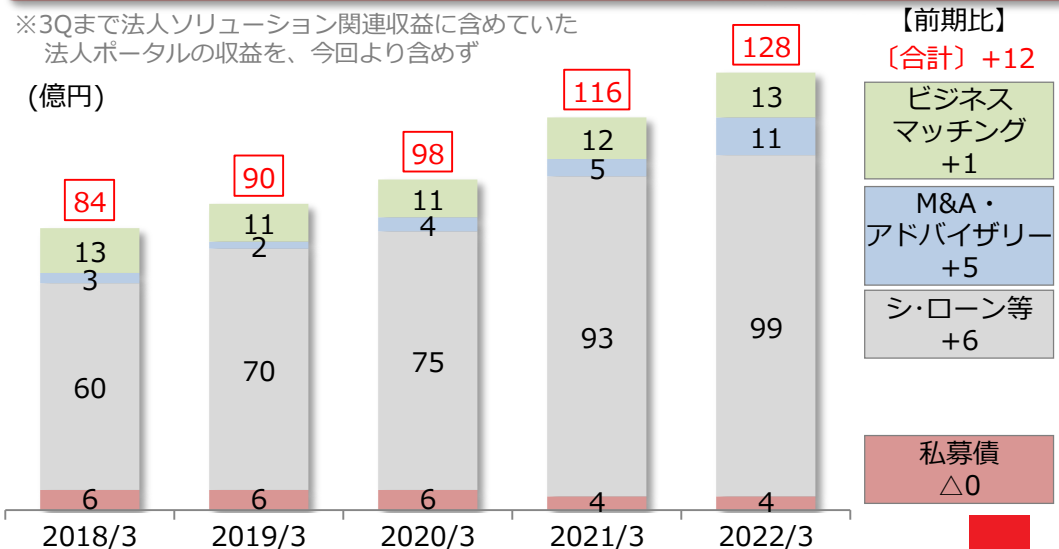
法人ソリューション関連が牽引し、役務取引等利益は過去最高を更新

(億円)	2021/3	2022/3	前期比
役務取引等利益	261	275	13
役務取引等収益	450	464	13
役務取引等費用 (△)	188	188	0
＜主な内訳＞			
うち預かり資産関連	81	71	△ 9
うち投信手数料	38	37	△ 1
うち年金・一時払終身保険手数料	13	11	△ 2
うち平準払保険手数料	20	14	△ 6
うち金融商品仲介手数料	7	6	△ 0
うち法人ソリューション関連	116	128	12
うち私募債	4	4	△ 0
うちシ・ローン等	93	99	6
うちM&A・アドバイザリー手数料	5	11	5
うちビジネスマッチング手数料	12	13	1
うち信託・相続関連	13	17	4
うちキャッシュレス関連	6	13	6
うち為替関連	130	126	△ 3
うちローン支払保険料・保証料 (△)	121	121	0

## 役務取引等利益



## 法人ソリューション関連収益



## 邦銀トップレベルの経費率（OHR）で、効率的な運営を維持

(億円)	2021/3	2022/3	前期比	2023/3	前期比
				(計画)	
経費(△)	860	845	△14	825	△20
人件費(△)	407	399	△8	391	△7
物件費(△)	375	382	7	372	△10
税金(△)	77	63	△14	61	△2
OHR(単体) ※1	55.0%	52.0%	△2.9%	49.6%	△2.4%
OHR(連結) ※2	55.8%	52.5%	△3.2%		

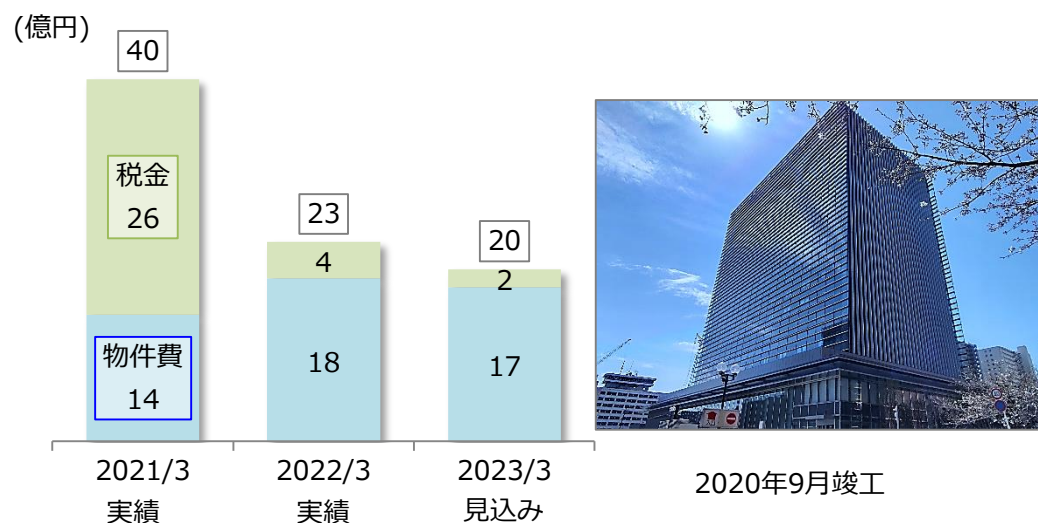
※1 経費 ÷ (業務純益 - 債券関係損益等 + 一般貸倒引当金繰入額 + 経費)

※2 営業経費 ÷ (連結粗利益 - 債券関係損益)

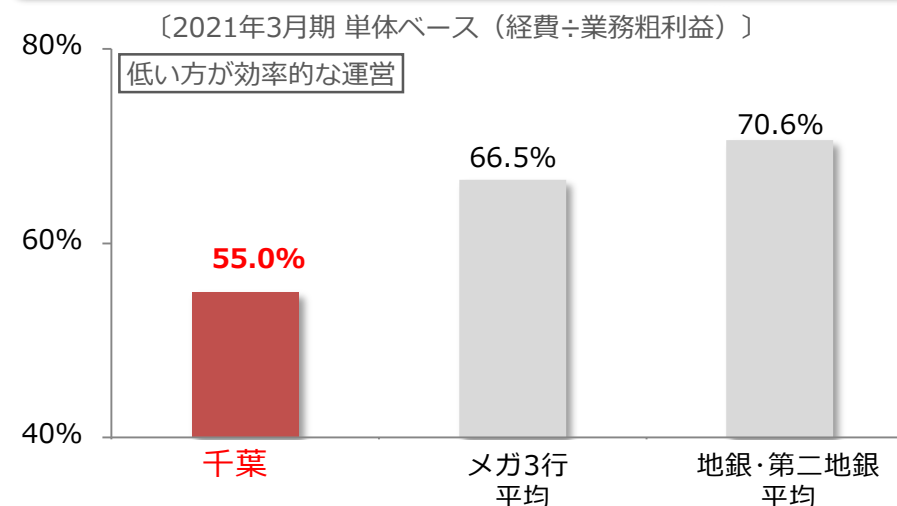
## 経費の主な増減要因

(億円)	2022/3 (実績)	2023/3 (計画)
人件費(△)	△8 退職給付費用減少△8 雇用調整助成金反動+2	△7 コスト削減策△4 人員減少△3
物件費(△)	+7 新本店ビル+4 収益増強施策・デジタル投資+9 効率化実現・コスト削減△6	△10 収益増強施策・戦略的投資+15 預金保険料率引下△19 効率化実現・コスト削減△6
税金(△)	△14 新本店ビル消費税反動減△26 新本店ビル不動産取得税等+4	△2 新本店ビル不動産取得税等反動減△2

## 新本店ビル関連 経費実績・見込み



## 経費率（OHR）他行比較

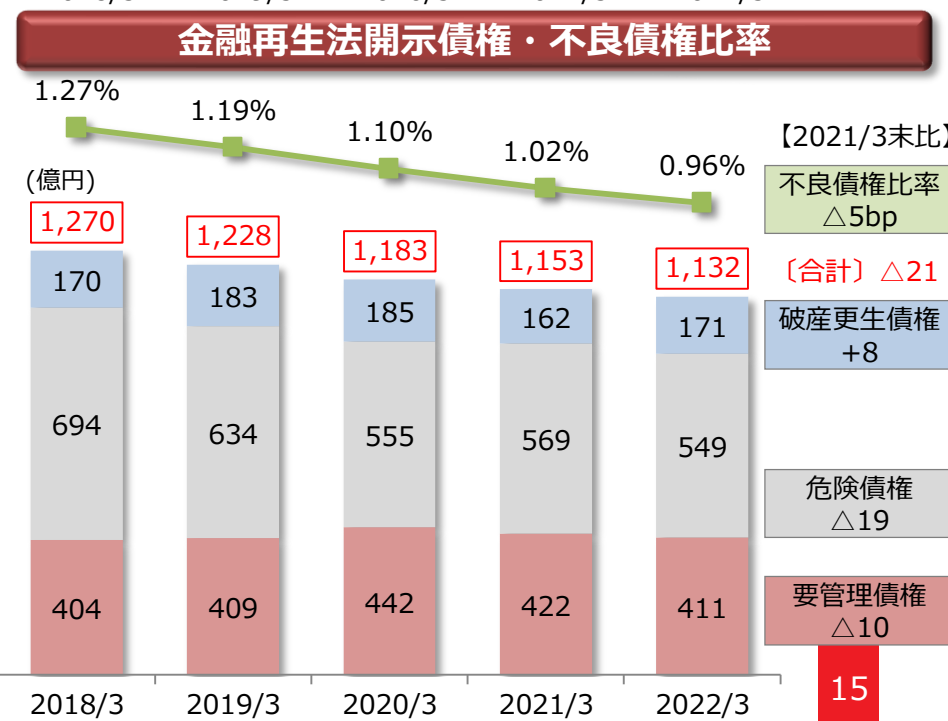
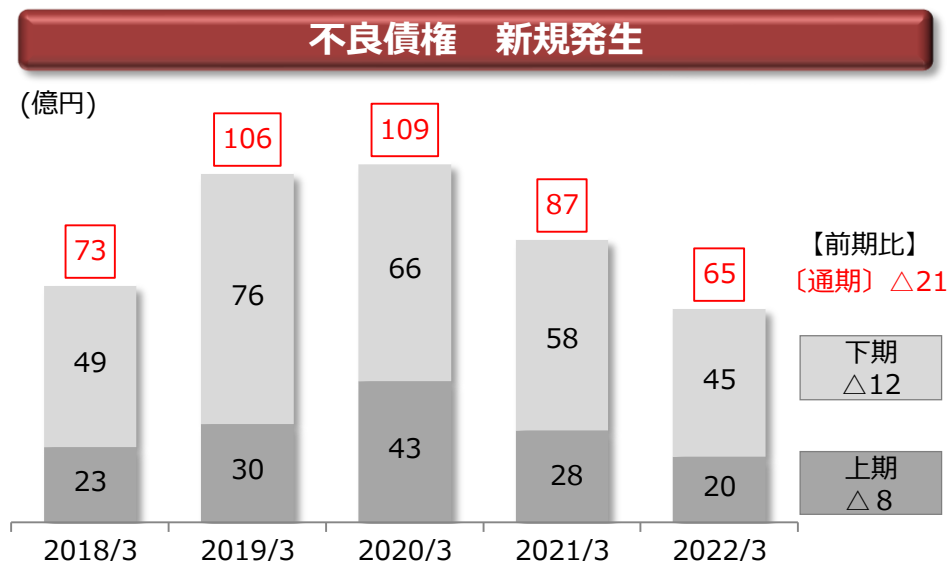


※出所：ニッキンレポート

# 与信関係費用

与信関係費用は低位に抑制できており、不良債権比率は1%割れまで低下

(億円)	2021/3	2022/3	前期比	2023/3	
				(計画)	前期比
与信関係費用 (△)	104	71	△ 32	90	18
一般貸倒引当金繰入額 (△)	32	15	△ 17	1	△ 14
不良債権処理額 (△)	71	56	△ 15	89	32
貸出金償却・個別貸倒引当金繰入額等 (△)	83	73	△ 10	107	33
うち新規発生 (△)	87	65	△ 21	100	34
うち既先 (△)	4	11	7	10	△ 1
うち回収等	7	3	△ 4	3	△ 0
償却債権取立益	12	17	5	18	0
与信費用比率 (△)	9bp	6bp	△3bp	7bp	1bp



### 貸倒引当率

部分直接償却後

単体 0.36%

連結 0.30%

→

部分直接償却前

単体 0.65%

連結 0.57%

参考

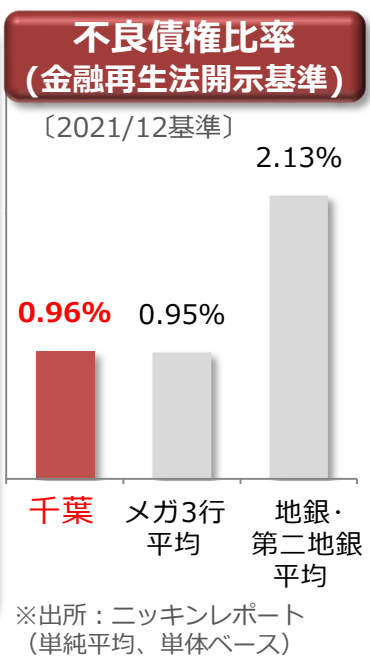
貸倒引当金 ÷ 貸出金

(貸倒引当金+部分直接償却額[貸出金分]) ÷ (貸出金+部分直接償却額[貸出金分])

#### 貸倒引当率の他行比較 (単体)

項目	千葉	メガ3行平均	地銀中央値
部直前	0.36%	0.65%	0.67%
他行		0.84%	

※単体は、貸出金から消費者ローンを除く  
 ※他行数字は2021/3基準公表値から当行計算(部直前後を考慮せず)



# コロナ影響・ウクライナ情勢の影響等

## コロナ影響・ウクライナ情勢を勘案したストレス時の与信費用は年100億円程度

### コロナ影響

#### マクロ的視点から算出

【前提】感染拡大・収束を繰り返しながら経済情勢は緩やかながらも回復に向かうものの、業種や個社の状況によっては回復に時間を要する

対象先：全与信先（下記「ミクロ的視点」の与信費用算出対象先、消費者ローンを除く）

- ①2022年3月の日銀短観データ等を参考とし、業種毎の影響度を想定
- ②資金繰り状況、コロナ禍の支援有無、業種、行内格付の要素を元に、影響を受ける先を特定
- ③ストレス下での与信費用を試算

業種別 コロナ影響	影響度	
	2023/3期	2024/3期
大 宿泊・飲食・旅客運送	影響大	影響大
中 建設・小売・個人サービス等	一定の影響	格付低位先に一定の影響
小 その他	無し	小幅影響

### コロナ影響の一時的赤字先

#### 【格付判定】

以下の目安等を参考に総合的に判断して、正常先に留める事例もあり

- コロナ前は黒字、繰越損失・債務超過無し
- 従来から正常先
- アフターコロナの黒字化が見込まれる

#### ミクロ的視点から算出①

対象先：■ グループ与信額1億円以上の条件変更先等  
（住居系不動産賃貸業・金融業・公共等を除く）  
■ 破綻懸念先以下

以下のコロナ影響調査等を基に、個社別の実態を踏まえた与信費用を試算

- 影響からの回復状況
- 足元の売上水準

#### ミクロ的視点から算出②

対象先：審査セクションが個別に実態を把握している先

個社別の実態を踏まえた与信費用を試算

### ウクライナ情勢の影響

対象先：中小企業の「小売」「卸売」「運輸業」

※財務基盤の弱い川下産業

原材料・燃料高騰の価格転嫁の遅れで収支状況が一定程度悪化するストレスシナリオを想定

※ロシア・ウクライナと直接取引する融資先における影響は足元では限定的であることを調査済

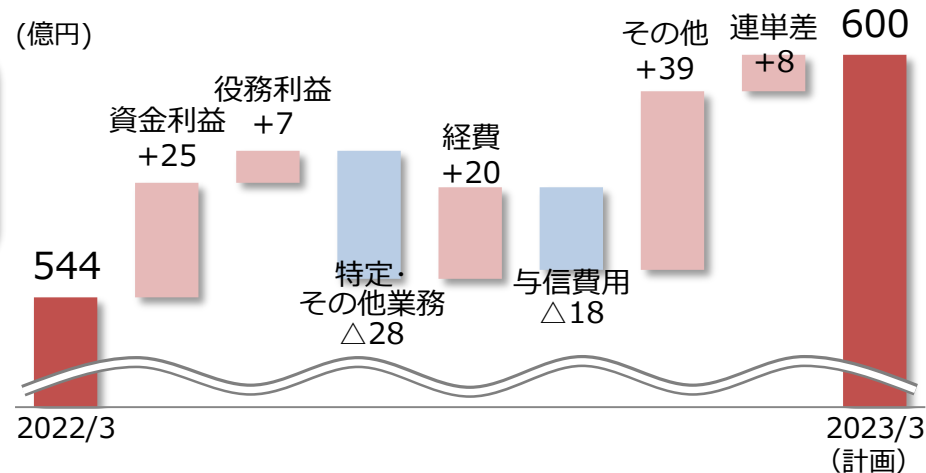
### ストレス時与信費用(新規発生)

(億円)

		2023/3期	2024/3期
コロナ影響	マクロ	29	39
	ミクロ	59	62
ウクライナ情勢の影響		12	-
合計		101	101

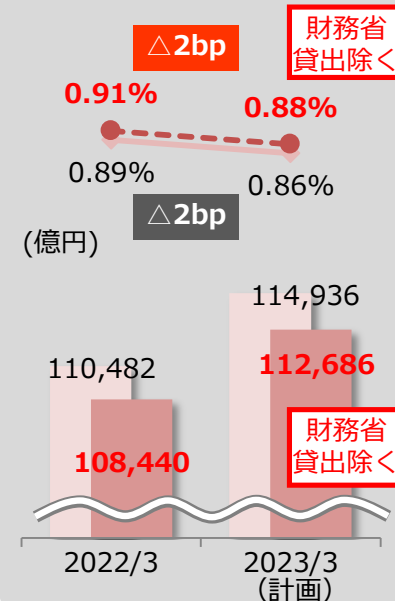
単体	(億円)	2022/3	2023/3	前期比
			(計画)	
業務粗利益		1,615	1,620	4
資金利益		1,318	1,344	25
役務取引等利益		275	283	7
特定取引利益		11	24	12
その他業務利益		10	△ 31	△ 41
うち債券関係損益		△ 14	△ 43	△ 28
経費 (△)		845	825	△ 20
実質業務純益		769	795	25
コア業務純益		783	838	54
除く投資信託解約損益		751	785	33
一般貸倒引当金純繰入額 (△)		15	1	△ 14
業務純益		754	794	39
臨時損益		△ 17	6	23
うち不良債権処理額 (△)		56	89	32
うち株式等関係損益		27	80	52
経常利益		736	800	63
特別損益		△ 3	△ 1	2
当期純利益		523	570	46
与信関係費用 (△)		71	90	18
連結				
	(億円)	2022/3	2023/3	前期比
連結経常利益		788	865	76
親会社株主に帰属する当期純利益		544	600	55

親会社株主に  
帰属する当期  
純利益の増減  
要因  
(単体+連単差)



	(億円)	2022/3	2023/3	前期比
資金利益		1,318	1,344	25
国内資金利益		1,236	1,261	24
預貸金利息		985	994	8
有価証券利息配当金		220	236	15
うち投信解約損益		27	41	13
国際資金利益		81	82	1
うち投信解約損益		4	12	7
役務取引等利益		275	283	7
うち預かり資産関連		71	82	11
うち法人ソリューション関連		128	130	1
うち信託・相続関連		17	22	4
うちキャッシュレス関連		13	18	5
うち為替関連		126	121	△ 5
うちローン支払保険料・保証料(△)		121	132	10

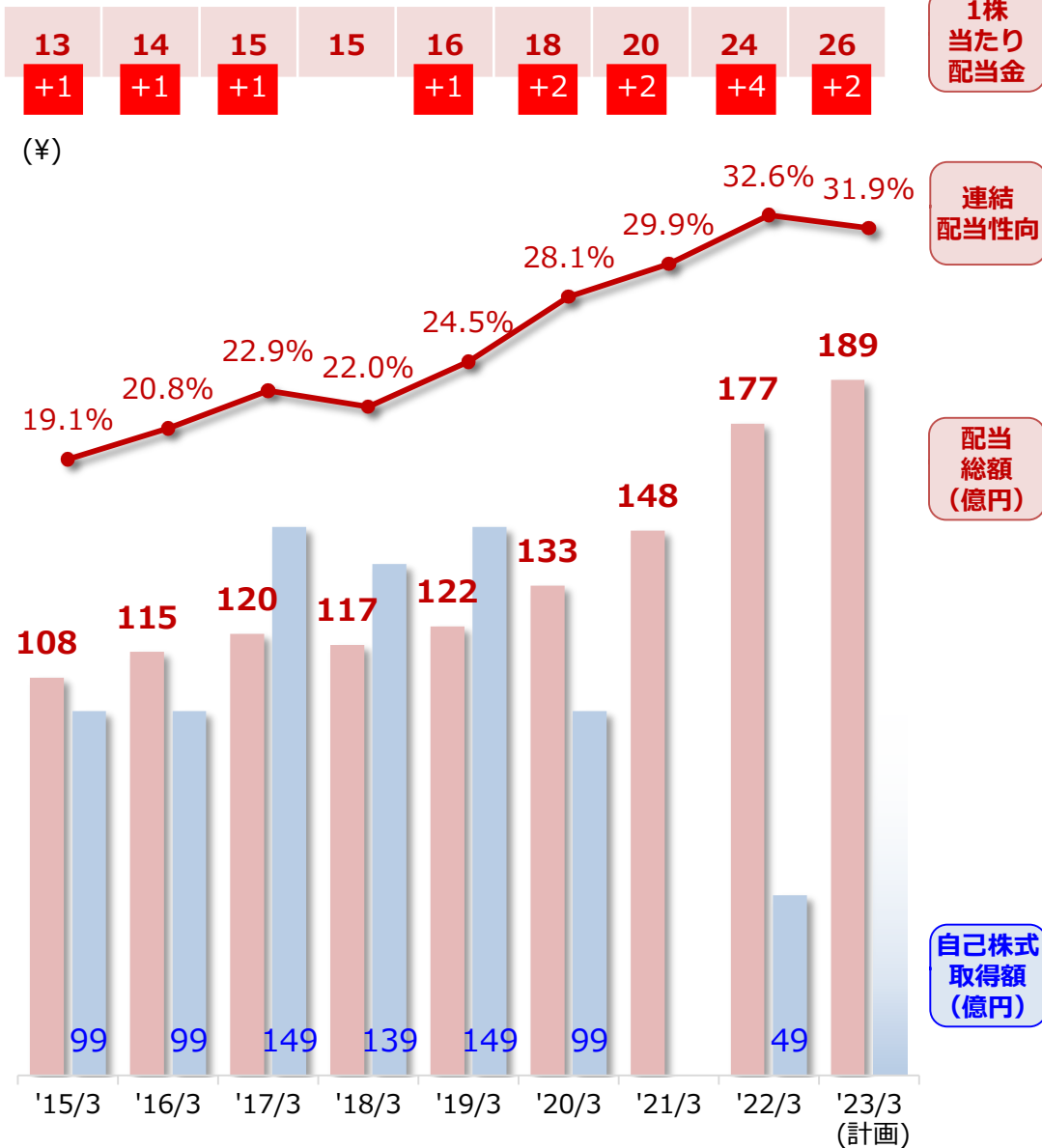
国内業務部門  
貸出金平残・利回り



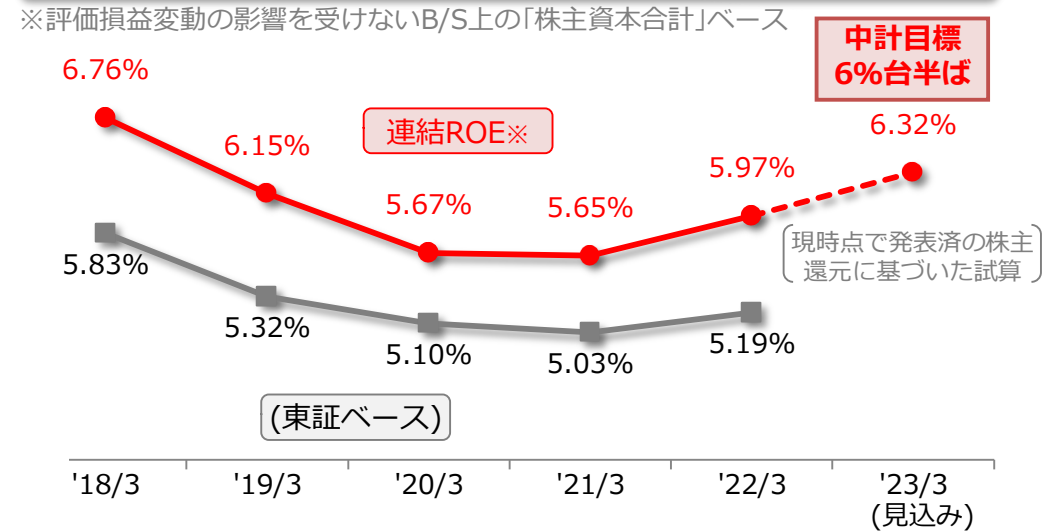


# 資本政策

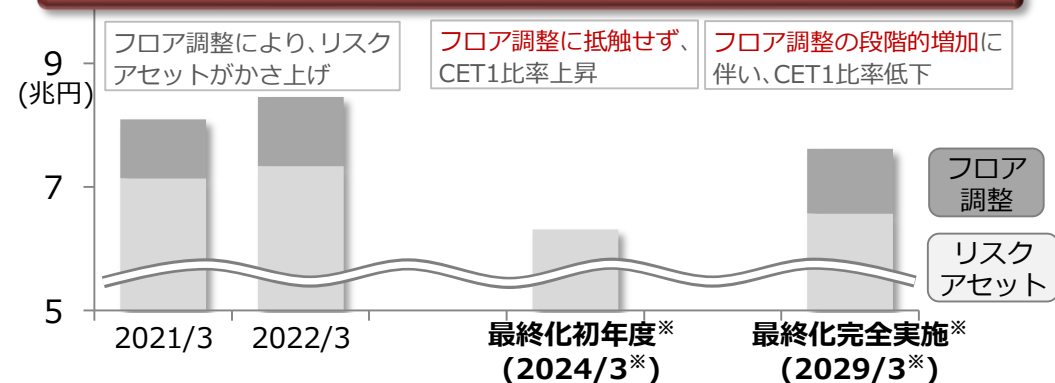
## 株主還元



## 連結ROE



## 連結自己資本比率・リスクアセット



(%)	2021/3	2022/3	最終化初年度*	最終化完全実施*
総自己資本比率	12.79	12.11	16.2	13.4
CET1比率	12.28	11.94	15.9	13.2
有価証券評価損益除き	10.56	10.58	14.1	11.7

※2022/3期の実績をバーゼルⅢ最終化基準で試算したものの、原則的な適用開始時期は表示時期に1年後倒しされた。

## 中期経営計画



## 中期経営計画の概要

当行グループが果たすべき使命

お客さまや地域社会のパートナーとして最新の金融サービスを提供し、  
地域経済の持続的な発展に貢献する

名称

第14次中期経営計画 NEXT STEP 2023 ～未来へ、つながる・超える～  
(計画期間 2020年4月1日～2023年3月31日)

ビジョン

金融機能の深化と地域金融の新たなモデル構築による、「カスタマー・エクスペリエンス」の向上

基本方針

## 基本方針Ⅰ

「お客さまに寄り添い共に進化し続けます」

- 個人のお客さまの生活に寄り添った相談相手になります
- 法人のお客さまの多種多様な経営課題を解決する最良のパートナーとなります
- 利便性と相談力の向上を両立させた店舗づくりを進めていきます

## 基本方針Ⅱ

「お客さまの未来のために新たな価値を創造し続けます」

- デジタルテクノロジーやあらゆる情報資源を活用して、お客さまに新たな価値を提供します
- 銀行の枠組みを超えたチャレンジを重ね、新たな価値を創出します

## 基本方針Ⅲ

「提携戦略を高度化します」

- お客さまに寄り添い、新たな価値を提供するため、他行連携・異業種連携を一層強化していきます

## 基本方針Ⅳ

「サステナブルな経営を実現します」

- 人材育成の強化や多様なワークスタイルの実現により、働きがいのある会社づくりに努めます
- ガバナンス・コンプライアンス・リスク管理など内部管理態勢を一層強化します

目標とする  
指標

親会社株主に帰属する当期純利益

600億円

連結ROE

6%台半ば

単体OHR

50%台前半

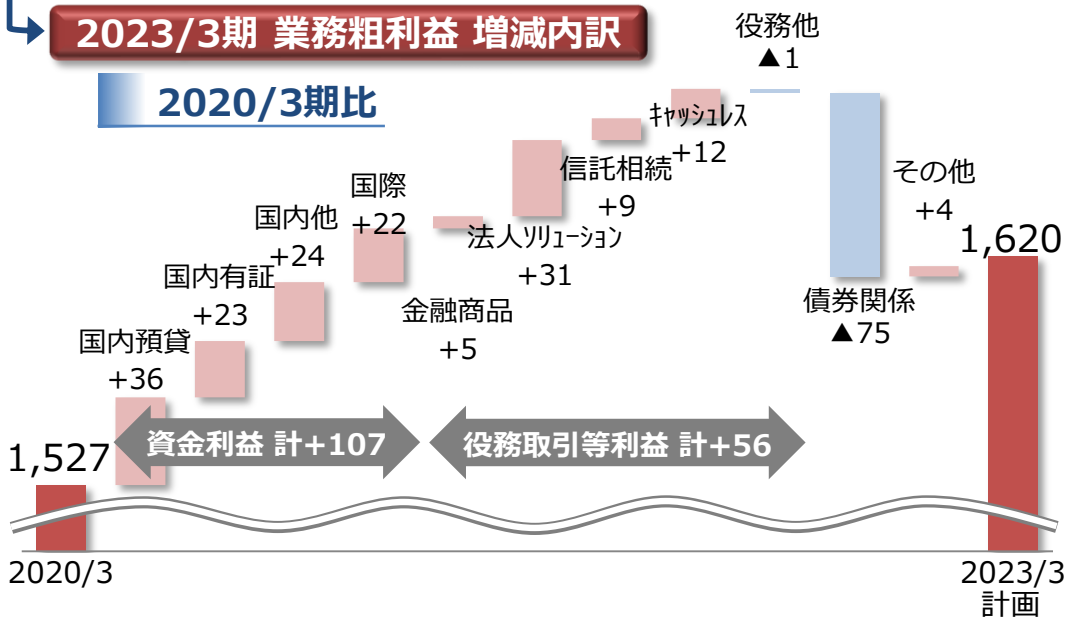
# 中期経営計画の進捗

(億円)

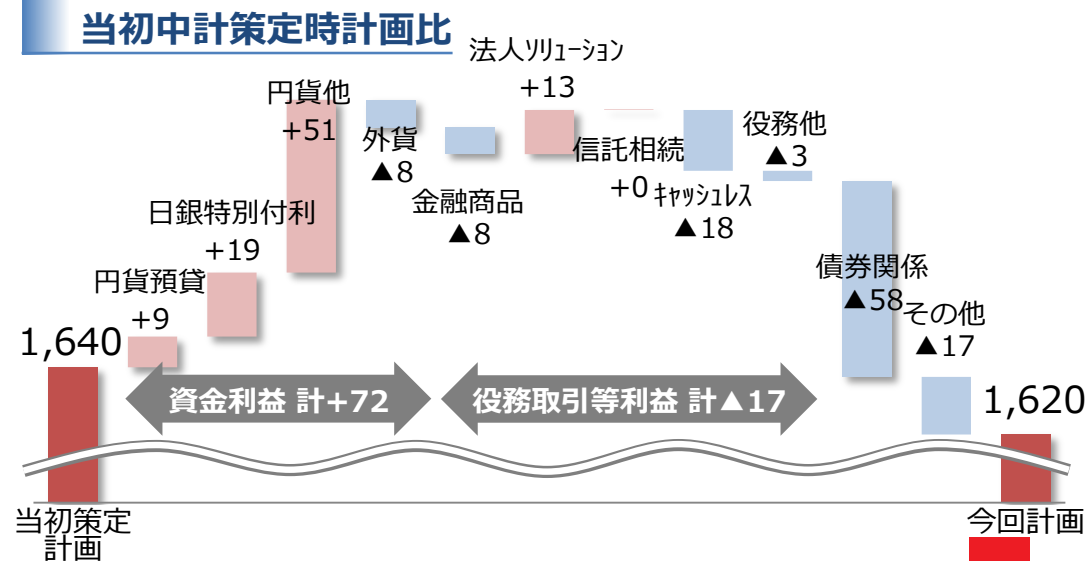
	前々中計 最終年度 2017/3	前中計 最終年度 2020/3	2021/3	2022/3	2023/3 計画	2020/3 実績比	中計策定時 計画比	2023/3 〔中計策定時 計画〕
業務粗利益	1,440	1,527	1,560	1,615	1,620	+92	△20	1,640
経費 (△)	831	819	860	845	825	+5	△30	855
実質業務純益	609	708	700	769	795	+86	+10	785
与信関係費用 (△)	△37	95	104	71	90	△5	+2	88
経常利益	700	678	642	736	800	+121	+11	789
当期純利益	486	459	456	523	570	+110	+10	560
親会社株主に帰属 する当期純利益	527	480	496	544	600	+119	-	600

## 2023/3期 業務粗利益 増減内訳

### 2020/3期比



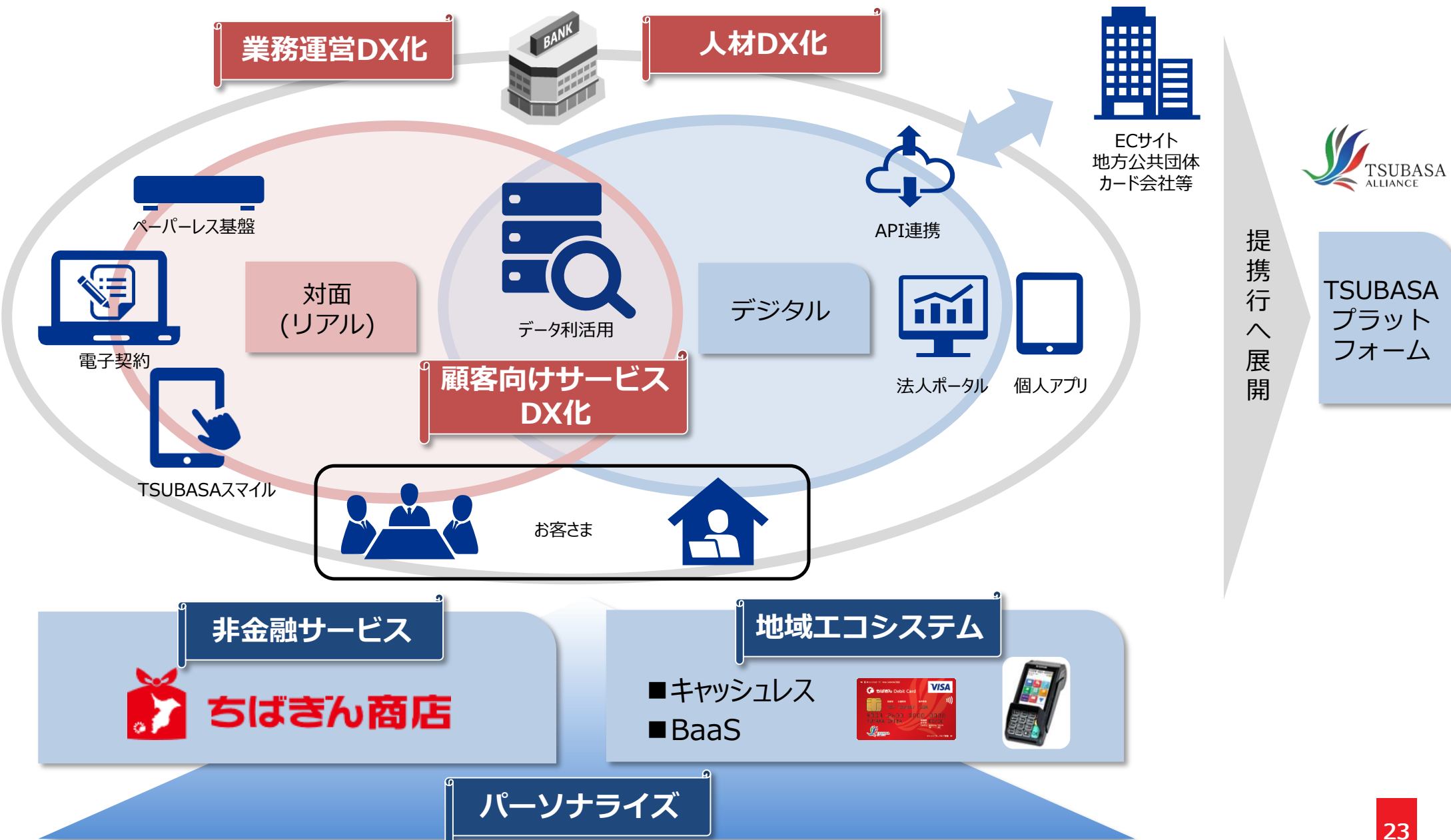
### 当初中計策定時計画比



# DX戦略

# DX戦略全体像

## DXにより銀行そのものを変革



## 「くらしとつながるアプリ」に向け、アップグレードを継続



「最高のアプリ」を全てのお客さまに提供する

～お客さまのくらしとつながり、あらゆるタイミングで常に使われるアプリ～

### 身近な金融サービスのアプリ化

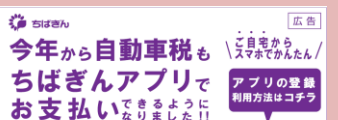
- 残高・入出金明細照会
- 振替・振込
- 定期預金 入金・解約
- バーコード支払い
- 来店予約

- 2022年4月～ **New**
- 定期預金 口座開設

### ■ 2023年度 上期

- 諸届
- eKYC

自動車税納付を  
アプリ推進に活用



自動車税納付書 裏面広告  
(千葉県:約180万通 5月発送)

### 金融サービスの充実

- デビットカード連携
- カードローン
- 投信明細照会
- 住宅ローン、無担保ローン申込
- ローン返済予定表

- 2022年4月～ **New**
- ポイント照会

### ■ 2023年2月

- 投信 口座開設・取引
- アプリ内ローン・通知

- 自動送金
- 住宅ローン繰上返済

### くらしとつながるアプリ

- Google Pay、Apple Pay連携
- 他社とのAPI連携
- 地域商社リンク

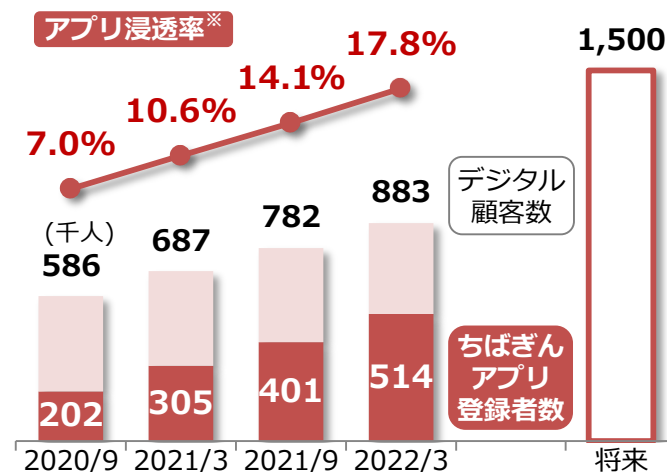
### ■ 2023年度 上期

- マイナンバー連携
- 地方税統一QRコード

- 異業種連携
- 自治体連携サービス(子育て、介護、納税等)

生活関連サービス全てのハブとなる中核チャネルへ

### デジタル顧客数・アプリ登録者数 アプリ浸透率



※ちばぎんアプリ登録者数÷個人の稼働顧客先数

### TSUBASA行への展開

#### 4行が導入

- 武蔵野
- 中国
- 群馬
- 琉球 **New**

アプリ導入先から人材受入  
⇒TSUBASA全体で開発

開発コストを  
約5割削減

提供済

計画

検討

事業者と当行をつなぐあらゆるサービスのハブとなるデジタルチャネル

ムーンショット目標

「最高の法人ポータル」を全てのお客さまに提供する  
～ あらゆるサービスのハブとなり、事業活動に欠かせない法人ポータル～

**デジタルでつながる**

- チャット
- 経営者向け情報配信
- 2022年2月
- Web会議
- 2022年5月～ **New**
- アンケート機能

**金融サービスのデジタル化**

- 口座残高、明細
- 入出金推移(グラフ化)
- 2022年2月
- 口座情報比較機能
- 2022年5月～ **New**
- 他行口座一覧表示
- 返済予定表のデジタル交付
- 借入一覧照会
- キャッシュフロー可視化
- 借入申込受付
- 電子契約との連携

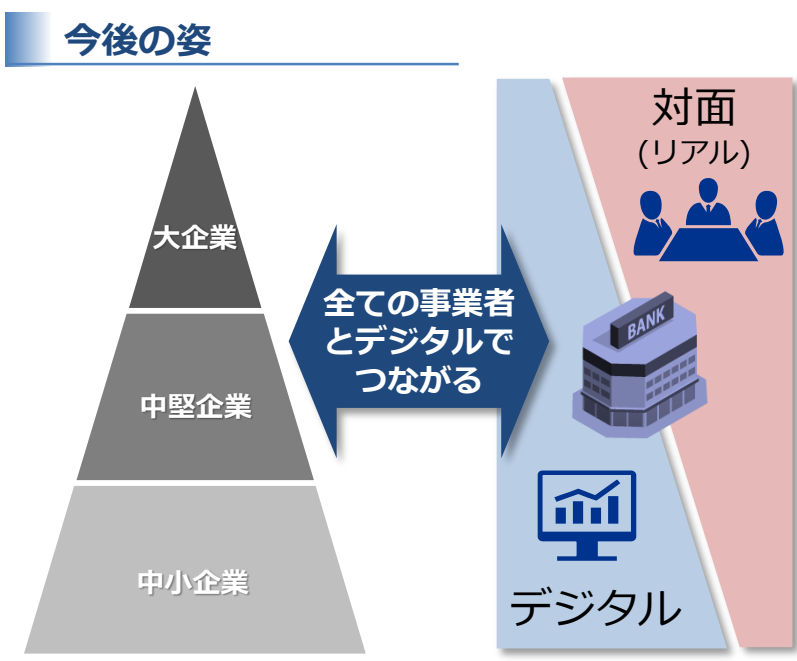
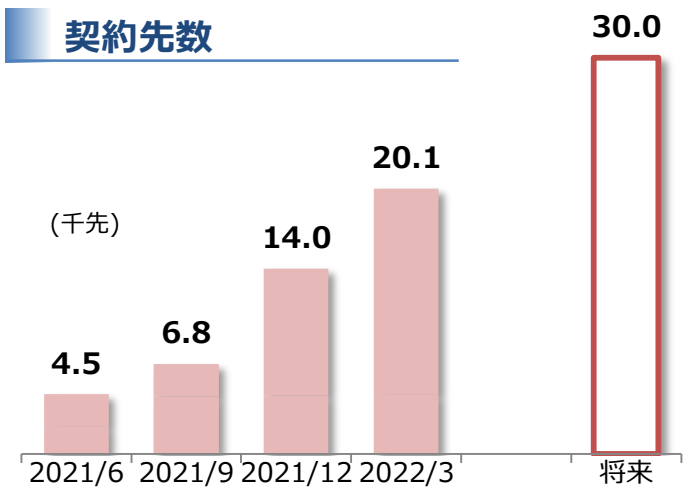
**経営課題の解決**

- BigAdvance
- 経営診断、財務分析
- 当行グループWebサイトとの連携
- 業務システムの提供

**提供済**

**計画**

**検討**



# ムーンショット目標③ ～データ一元化・業務効率化～

ムーンショット目標は実現へ ⇒ 次のステップへ

## データ一元化



「いつでも」「欲しいものが」「欲しい形で」得られる  
データ検索システムの実現

2021/7 **ムーンショット目標 実現済**

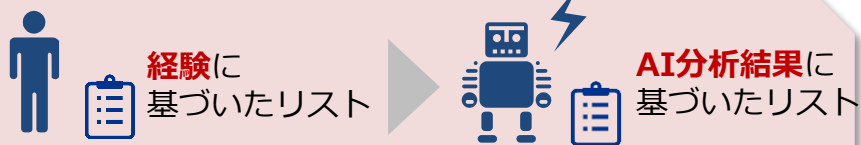
### 支店へのリスト還元

<2021/7～2022/3実績>

- リスト配信件数：254件
- 同先数：22.7万先
- **接触率：22%\***

※検証できるもののみを計上

### 今後の姿



**マーケティング戦略の高度化**  
(パーソナライズ化による顧客アプローチ最適化、自動化実現)

## 業務効率化



銀行内部で発生する「紙と印鑑の使用」を0にする。

**店頭タブレット「TSUBASA Smile」**

千葉銀行 中国銀行 第四北越銀行

**TSUBASA汎用ペーパーレスシステム**  
(2022/6～) **New**

千葉銀行 中国銀行

ムーン  
ショット  
目標  
概ね達成

### 今後の姿

**超軽量店舗** 案内係とリモートブースのみ

**TSUBASA事務共同化**

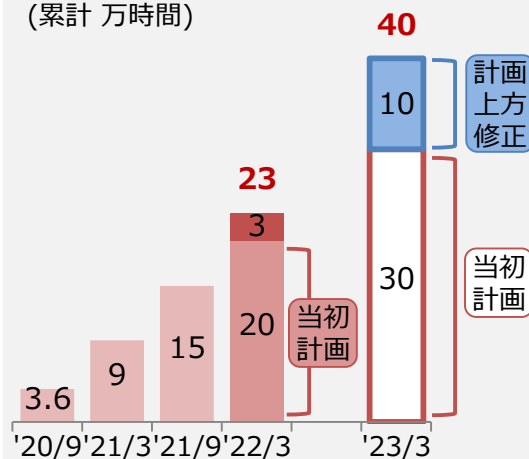
千葉銀行 中国銀行

TSUBASA ALLIANCE

バックオフィス共同運営

### 業務削減量

(累計 万時間)

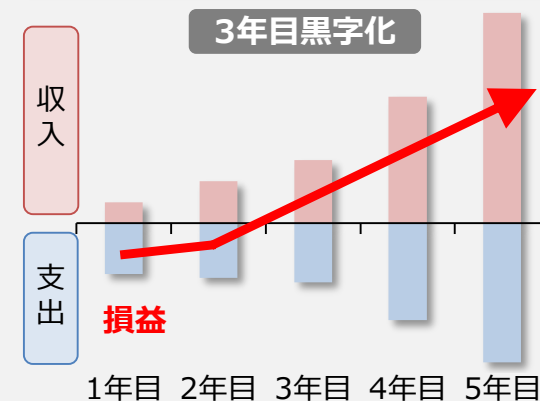




「非金融サービス」をハブとして、地域エコシステムを構築



Step1の収益イメージ



Step 1. 「地域産品」

千葉発の「地方創生の起爆剤となる商品・サービス」を創出し、千葉を代表する商品・サービスを生み出していく。

クラウドファンディング

新商品・サービスの発掘・創出

ECサイト

継続販売



個別ブランド

個別商品をブランド化



クラウドファンディングサイト「C-VALUE」(2021/10～)



- 公開プロジェクト数 累計51 (公開終了のうち75%が目標金額達成)
- 会員数：4,000人超



Step 2. 「ライフイベント」

①住宅

2022年度上期～  
【トライアル開始予定】

New



お客さま

データ活用・パーソナライズで潜在ニーズ発掘

送客

①

これまで：④のみ

これから：①から

④ 送客 (住宅ローン)

不動産業者



送客

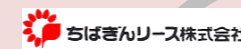
②

ライフイベントに関する商流の川上に立ち、金融・非金融サービスをワンストップで提供

③ 送客

提携不動産会社  
住宅購入に関するコンシェルジュサービス

②自動車



Step 3. 「暮らし」

新たな日常における消費活動を支援し、「暮らしとつながる」を実現

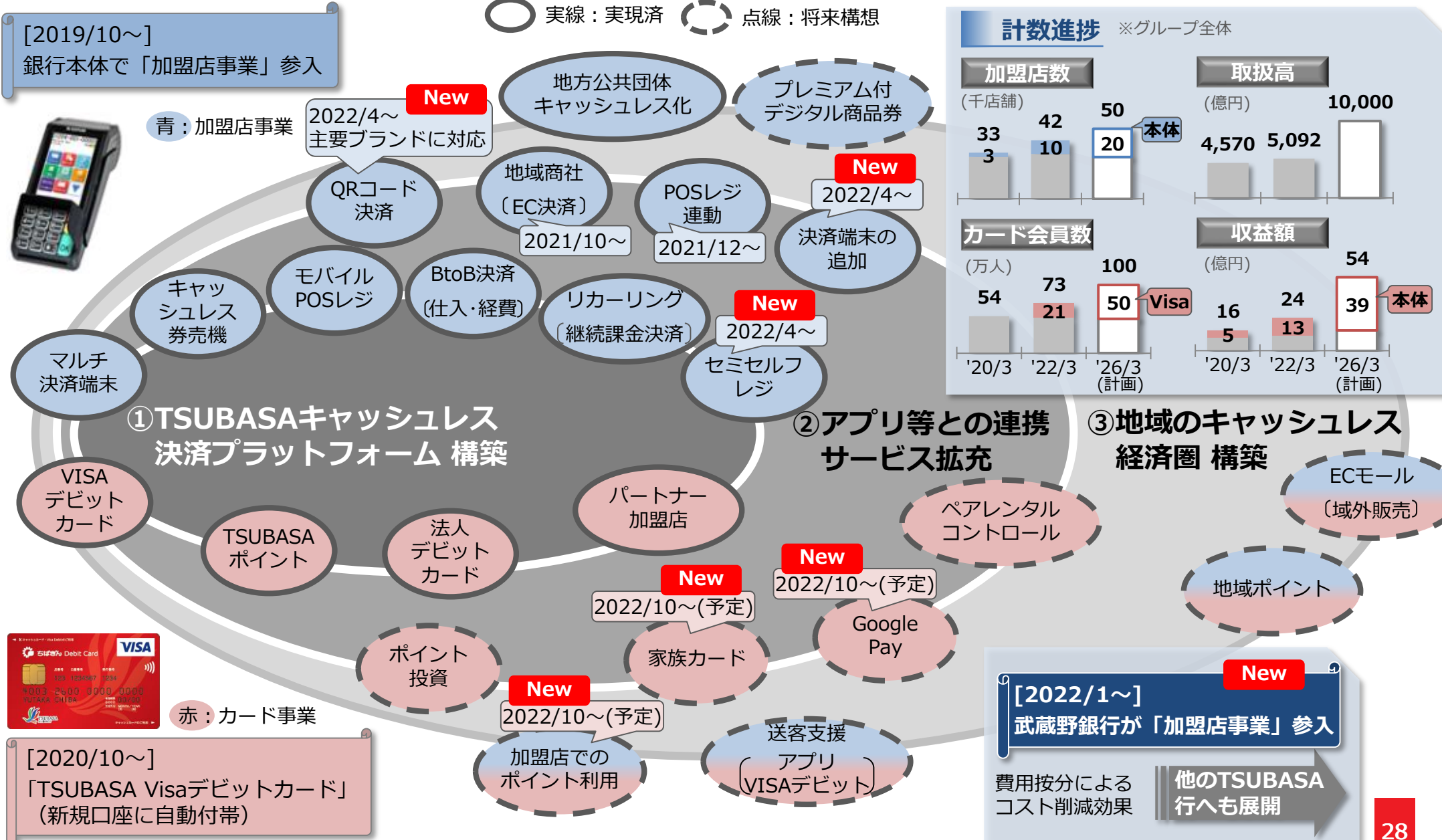
【主要領域】



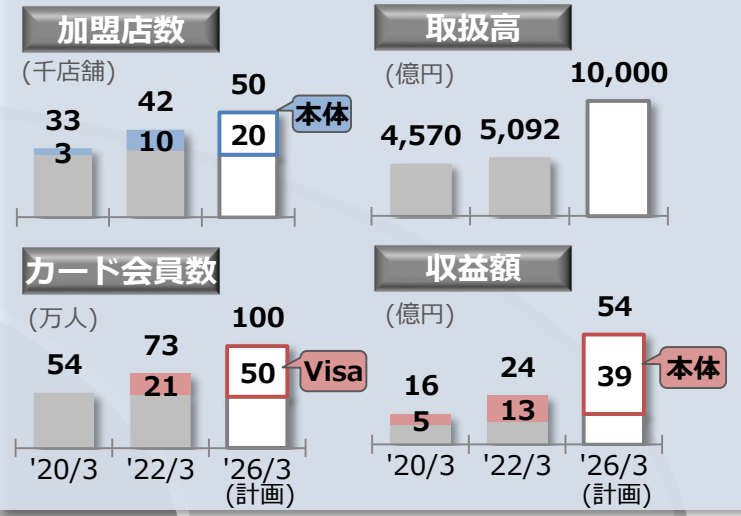


地域エコシステムを構築

○ 実線：実現済 ○ 点線：将来構想



計数進捗 ※グループ全体

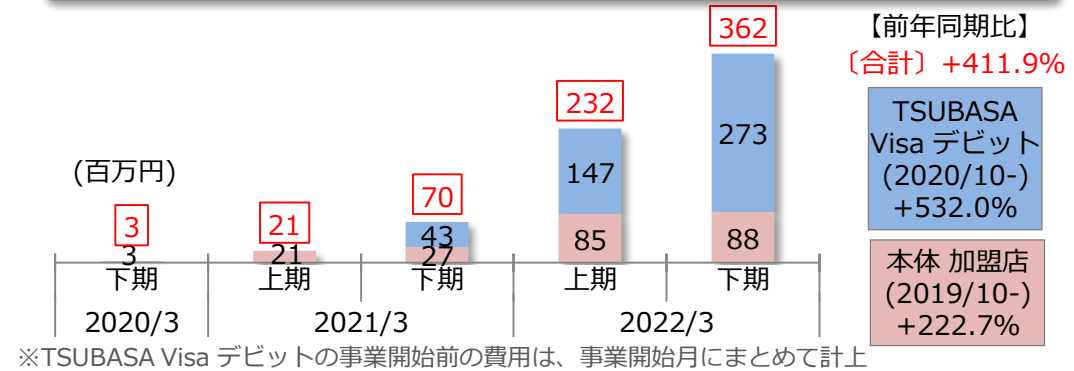


キャッシュレス事業収支

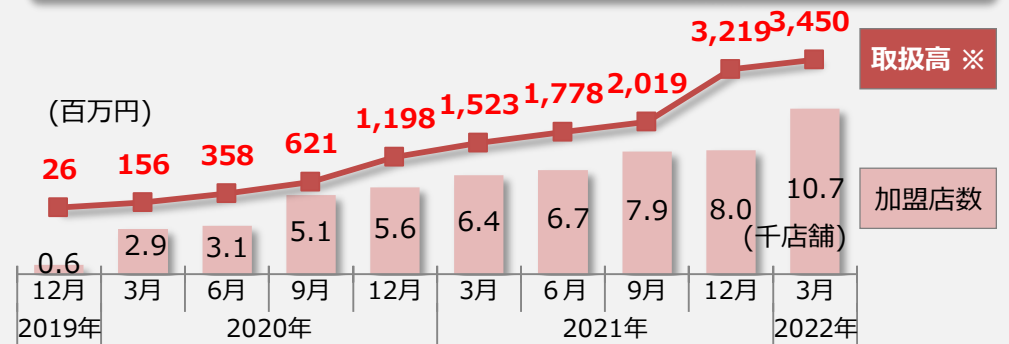
		(百万円)	2021/3	2022/3	前期比
本体事業 合計	利益		648	1,306	657
	収益		2,360	3,310	950
	費用(△)		1,711	2,004	293
本体 新規事業 合計	利益		92	594	502
	収益		307	1,195	888
	費用(△)		215	601	386
本体 加盟店	利益		49	173	124
	収益		253	706	453
	費用(△)		203	532	329
TSUBASA Visa デビット	利益		43	420	377
	収益		54	488	434
	費用(△)		11	68	56
本体 既存カード 事業	利益		556	711	154
	収益		2,052	2,114	61
	費用(△)		1,496	1,403	△ 92
関連会社 (ちばぎんJCB) (ちばぎんDC)	利益		1,171	1,186	14
	収益		4,757	4,860	103
	費用(△)		3,585	3,674	88
(参考)					
グループ 合計	利益		1,820	2,492	671
	収益		7,117	8,171	1,053
	費用(△)		5,297	5,678	381

※関連会社の費用には、人件費等の営業費用も含めて記載

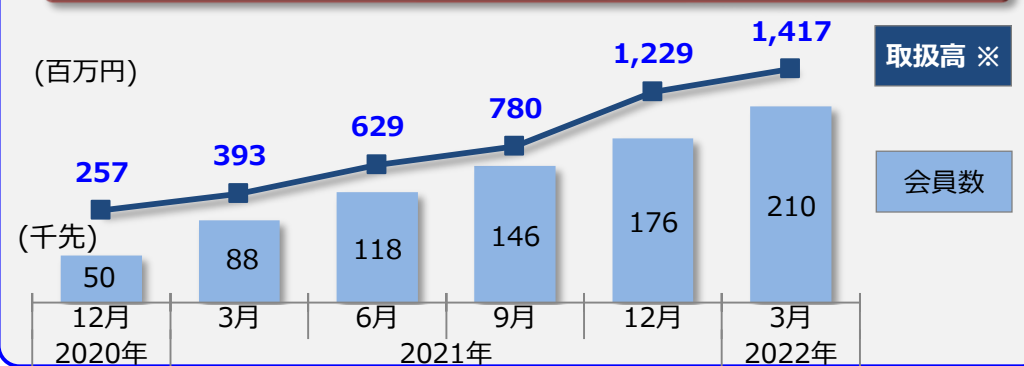
本体新規事業 利益 半期推移



本体加盟店事業 加盟店数・取扱高



TSUBASA Visa デビット 会員数・取扱高



※取扱高：該当月における1ヵ月間の決済額

当行プラットフォームを「BaaS」として提供し、地域エコシステムを構築

当行プラットフォーム

アプリ

キャッシュレス

地域商社

広告 (予定)

API

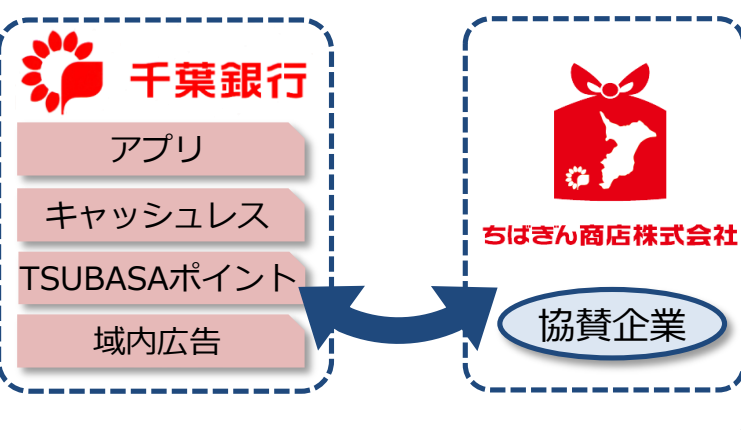


地域エコシステム例

地域事業者等

- 不動産事業者
- 小売事業者
- 職域
- 大学
- 広域医療施設
- 地方自治体

お客さま



# パーソナライズ

## データ分析から潜在ニーズを掘り起こし、ペルソナ・ライフイベントに合わせた的確な提案





新規事業を積極的に展開

リモート金融コンサルティングサービス

(2022年4月～) **New**  
営業開始

**NOMURA**

千葉銀行 中国銀行  
第四北越銀行

出資

**onad**  
オンアド



あなただけのオンリー・アドバイス  
お金の「わからない」を「わかる」に。  
**オンアドが解決します!**

スマホ/PCでどこでもつながる  
具体的な相談が、決まっていなくても大丈夫

アドバイス特化、しつこい営業一切なし  
専任アドバイザーを自由に決められる  
自分だけのプランが見つかる

オンアドで相談できる!  
**5つのカテゴリー**  
詳しく知りたいカテゴリーを選択!

1 ライフプラン  
2 資産形成・運用  
3 保険  
4 相続・贈与  
5 ローン

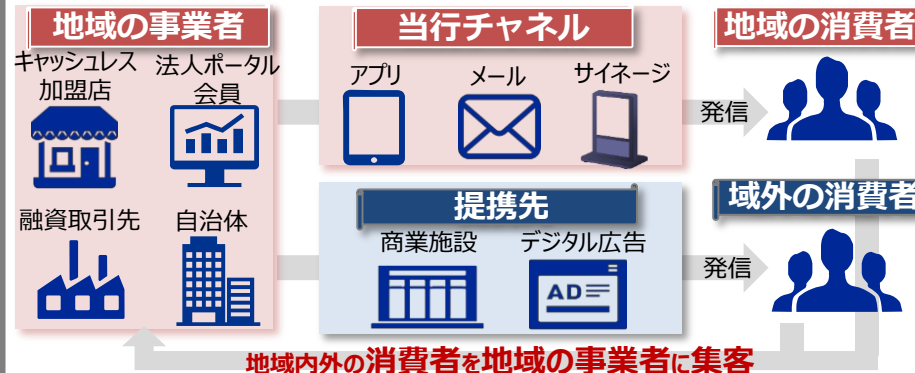
将来の夢や目標を叶えるために  
シミュレーションで何をすべきか  
**見える化 × 明確化**

あなたのお金についての課題を見出し、投資助言者として有価証券の活用も視野に入れたプランシミュレーションを行います。課題の抽出だけでなく、今後取るべき対策までアドバイスを行います。

広告事業

千葉県の広告市場規模※：約600億円

※経済産業省「経済構造実態調査」や中小事業者数を基に千葉銀行で算出（広告主側のみ）



位置情報を活用した地域活性化マーケティング事業

千葉駅周辺の当行拠点・商業施設

**New** (2022年2月～) **ビーコン** **New** (2022年5月～) (予定)

千葉銀行公式LINE  
ちばぎんアプリ

100m圏内のお客さま

キャンペーン情報  
商業施設クーポン

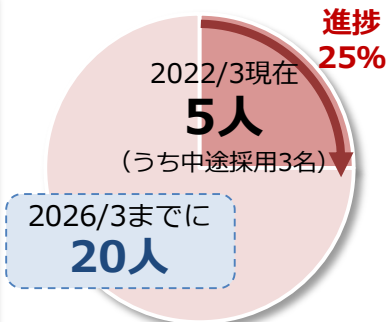
今後(案)  
プッシュ配信の本格展開  
人流データに基づくマーケティング支援  
地元事業者へのプラットフォーム展開

# DX人材

DX人材を「3つのレベル」に分けて、それぞれに認定要件を設定

## DX認定制度

DX専門人材



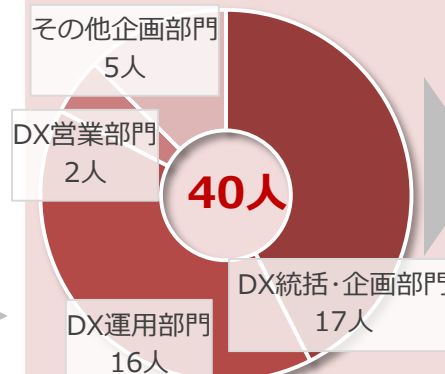
テクノロジー(AI・高度なデータ分析等)やデザインに関する**高い専門性を有する人材**

外部人材 (中途)



## DXコア人材 内訳

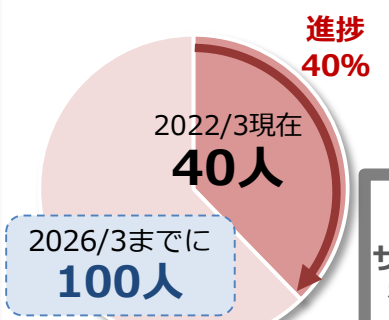
2022/3時点



2026/3イメージ



DXコア人材



テクノロジーやデザインに関する一定の知識を有し、**DXを中心に推進できる人材**

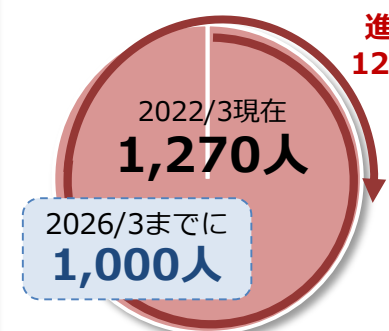
DXトレーニー



トレーニー期間：半年～1年

- 2021/4 第1期生 10名派遣
- 2021/10 第2期生 10名派遣
- 2022/4 第3期生 10名派遣

DXベース人材



DXの素養・適正のチェック

DXに関する**一定のリテラシーを有する人材**  
(ITパスポート取得)

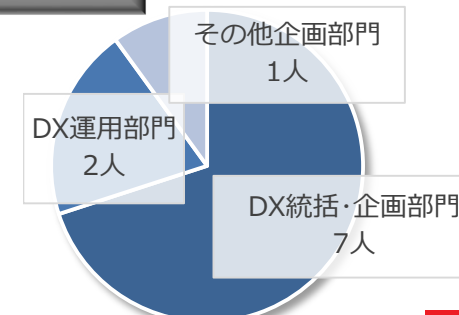
外部派遣

累計**30人**

- Webデザイン
- データサイエンス
- アプリ分析
- アプリ企画開発
- クラウド環境構築

配属先

[第1期生10名内訳]



※職員数：4,070名 (2022/3時点)

## 各種施策

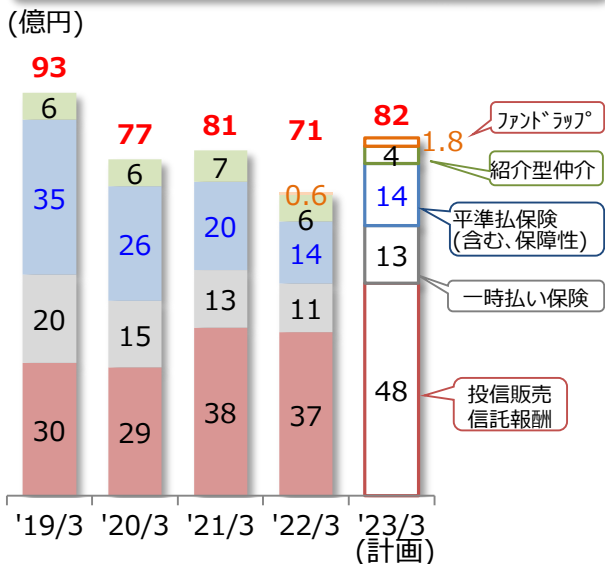
個人①

～ 金融商品販売、信託・相続関連業務 ～

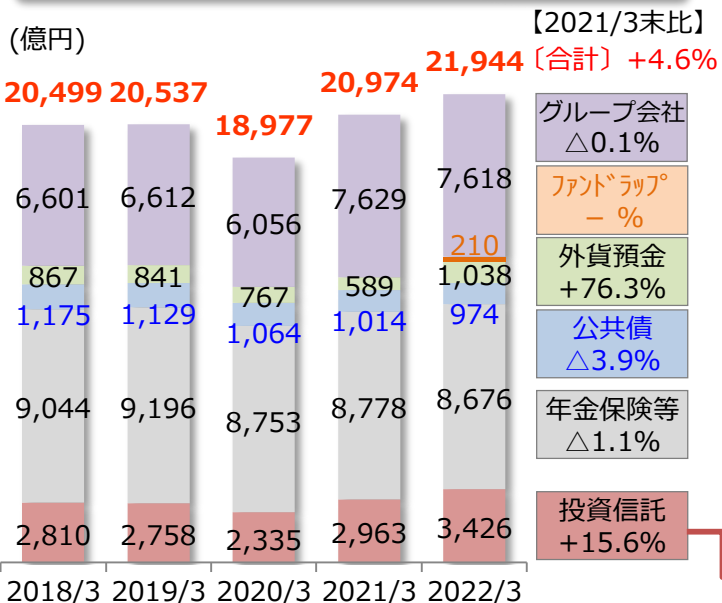
投資信託業務拡大に向け、新たなシステムを導入

金融商品販売

金融商品販売 役務利益



預かり資産残高 (グループ合計)



投資信託業務拡大に向けた取組み

新提案ツール

(2023/3予定) **New**

- 長期保有の促進
- 行員スキル向上
- システムによる網羅的なアフターフォロー

約定ペーパーレス

(2023/3予定) **New**

- 顧客利便性向上
- 提案に必要な時間捻出
- 軽量店舗に向けた土台

投信スマホアプリ

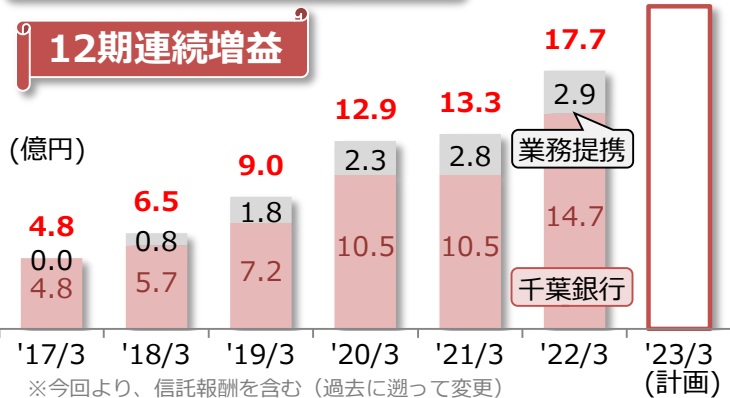
(2023/2予定)

- 若年層の取込み
- つみたてNISAの増強
- マス対応のスマホシフト

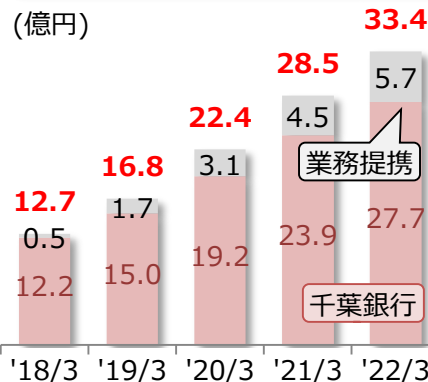
次期中計最終年度(2026年3月)の投信残高 **6,000億円**へ

信託・相続

信託・相続関連 役務利益



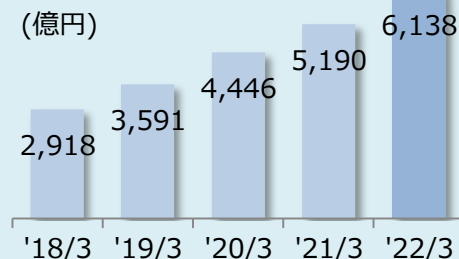
保管中遺言将来執行収入



当行サービス  
を利用する  
提携行

- 第四北越銀行
- 中国銀行
- 武蔵野銀行
- 東邦銀行
- 琉球銀行

相続業務を通じた把握資産額



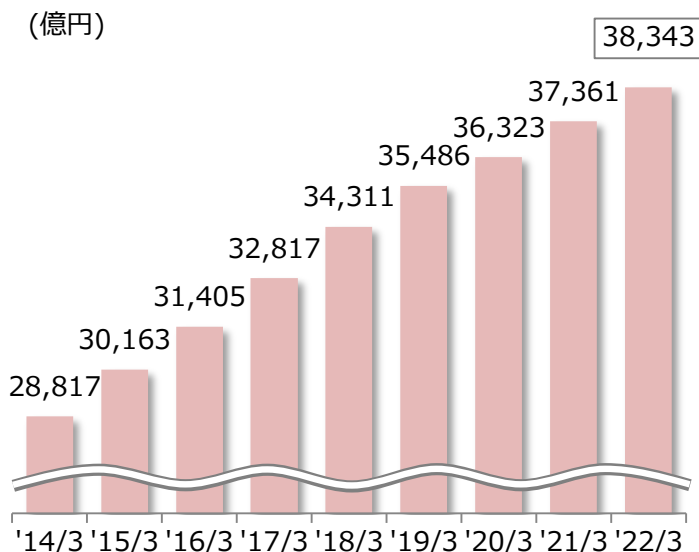
派生取引拡大



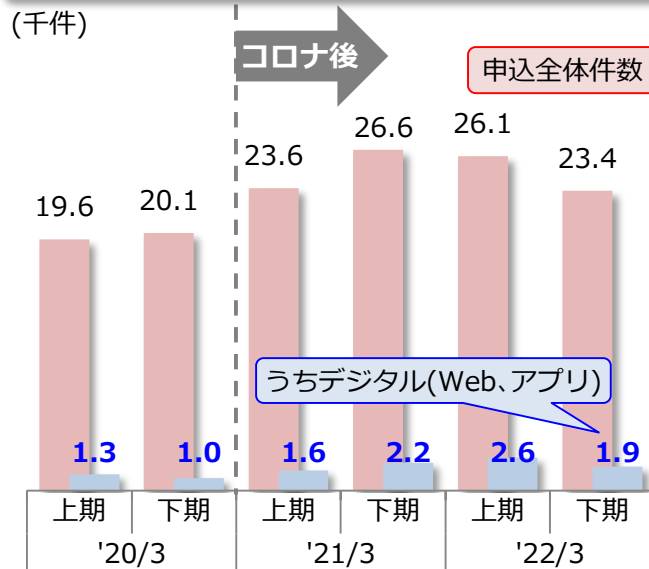
個人②  
～住宅ローン～

住替えニーズの高まりを受けて、申込・実行とも順調に推移

住宅ローン残高



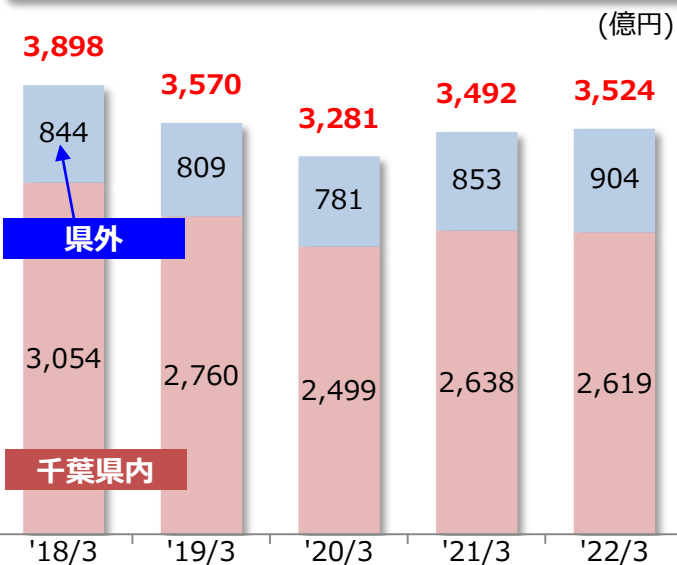
事前審査申込件数



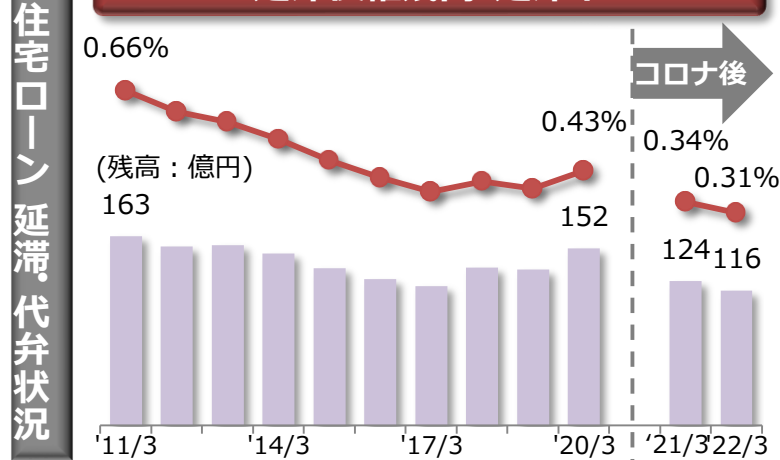
住宅ローン拡大に向けた取組み

- 購買プロセスの上流に立った提案  
〔ちばぎん商店活用〕(2022年度上期 トライアル予定)
- 地場業者のプロジェクト支援による開発案件の取込み
- 審査基準を現状に即して改定  
〔ダブルインカム夫婦等〕
- 正式申込率向上  
〔アフターフォロー、プロモーション〕
- 非対面のインフラ整備  
〔Web完結スキーム〕

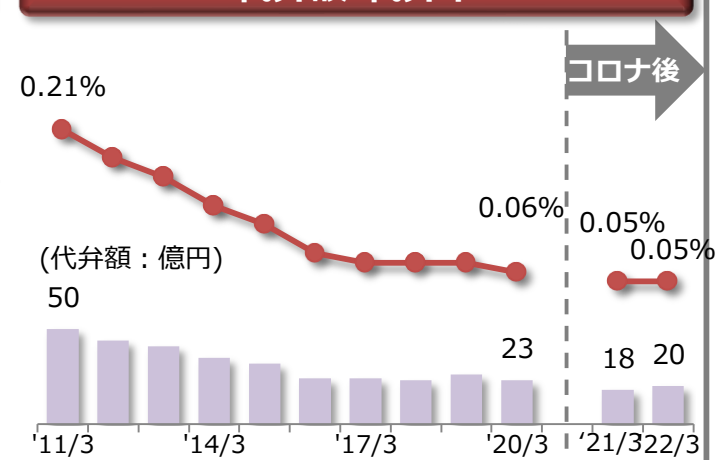
住宅ローン実行額



延滞債権残高・延滞率

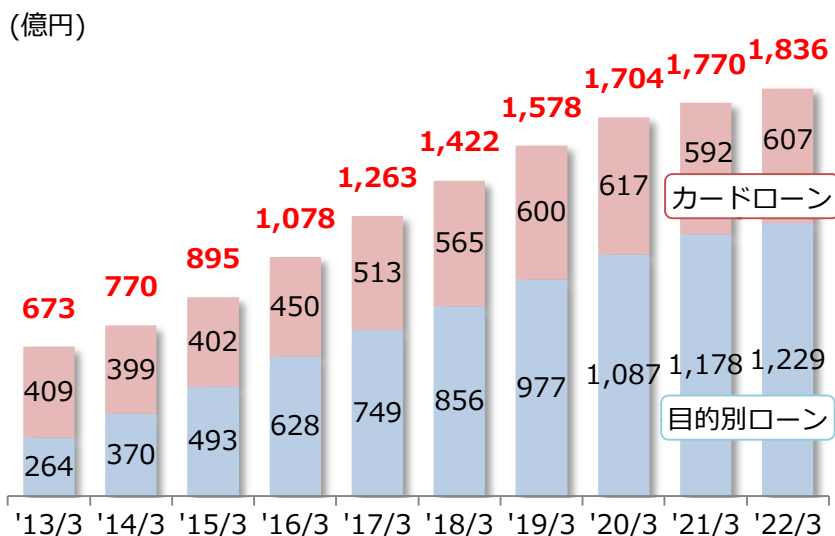


代弁額・代弁率

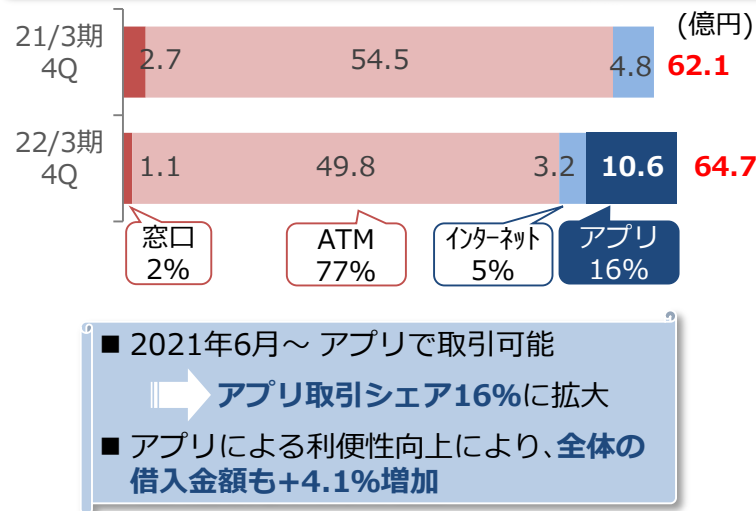


残高を増強しながらも、資産の健全性を維持

無担保ローン残高



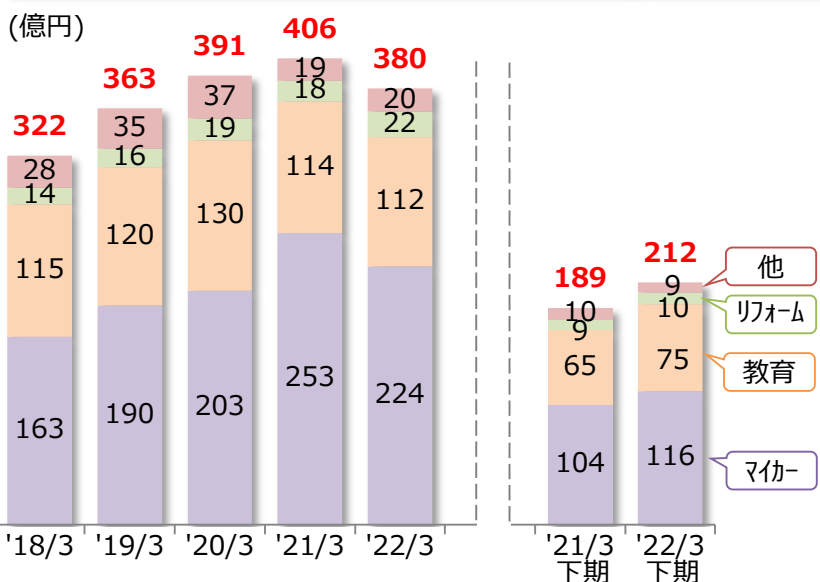
カードローン借入チャンネル



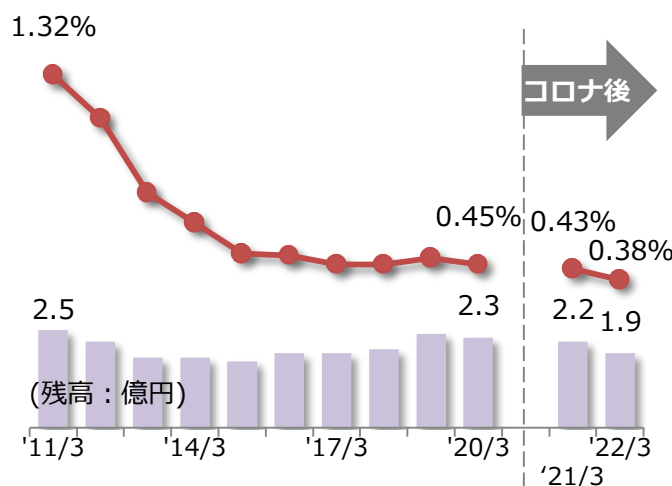
無担保ローン拡大に向けた取組み

- アプリ内ローン** (2023/2予定)
  - 口座保有先をターゲットとして当行優良顧客を囲い込み
- プッシュ通知** (2023/2予定)
  - アプリで、顧客ニーズを捉えた通知配信
- 商流の川上に立った提案**
  - ちばぎん商店や情報を活用して、購買プロセスの上流での確な提案

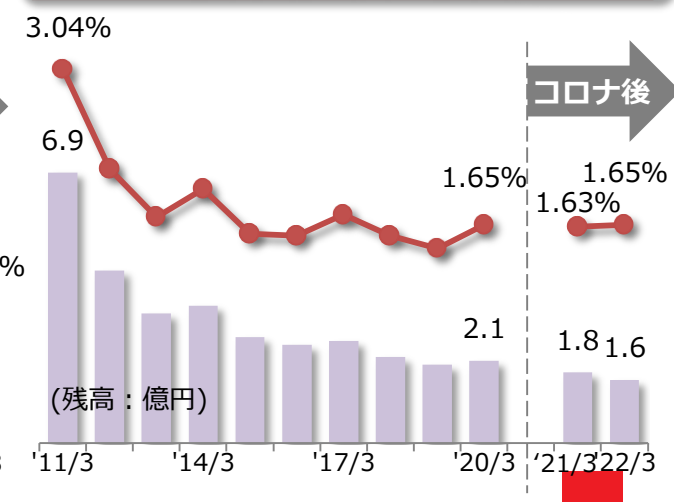
目的別ローン実行額



目的別ローン (ちばぎん保証) 延滞債権残高・延滞率



カードローン (ちばぎん保証) 延滞債権残高・延滞率

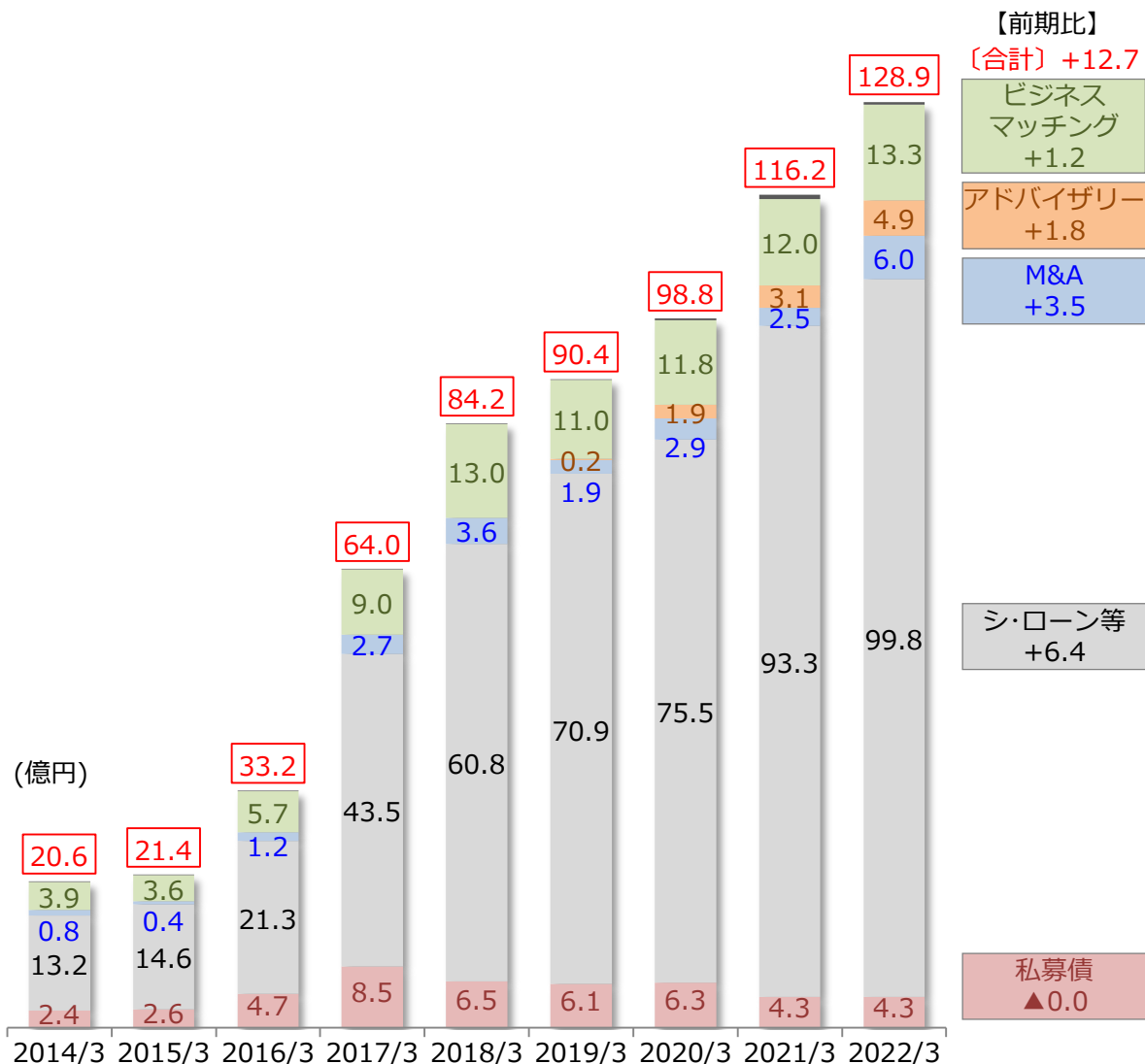


# 法人① ～法人ソリューション①～

## 11期連続で最高益を更新

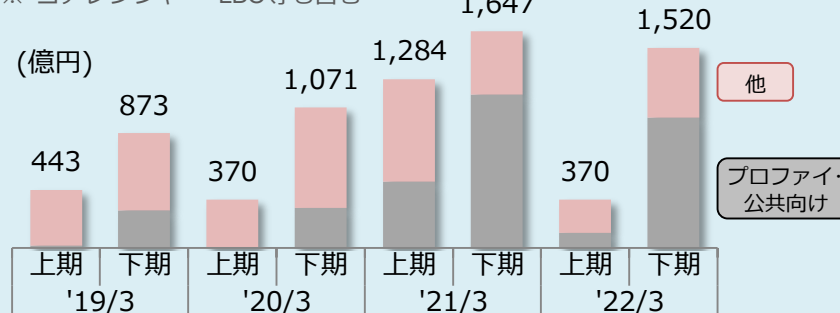
### 法人ソリューション収益

※内訳の記載のない「その他」があり（2022/3期は0.4億円）



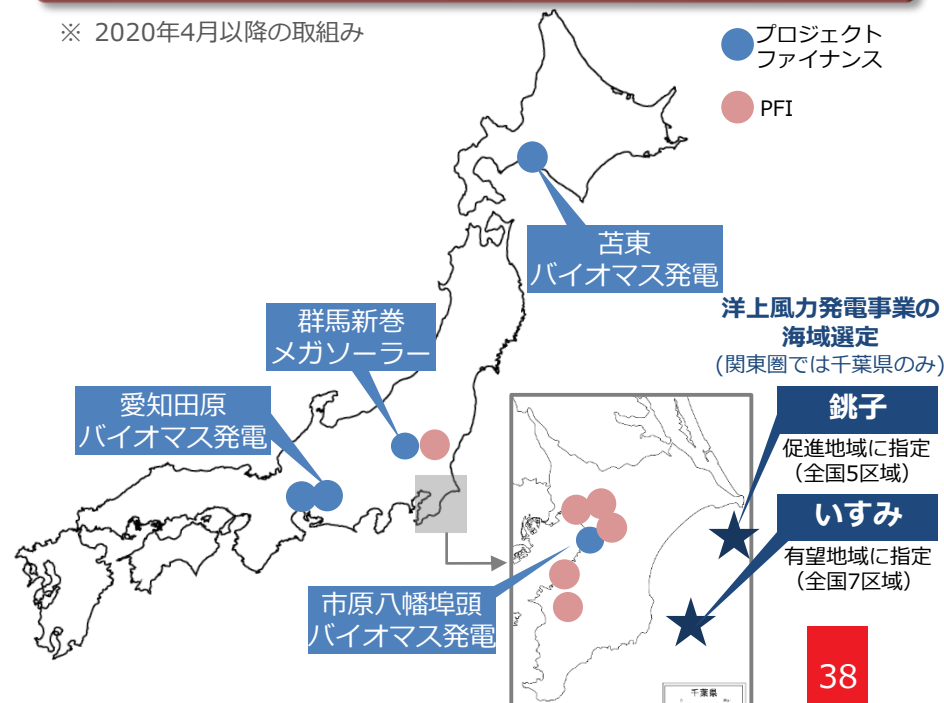
### 当行アレンジ シ・ローン組成額

※ コアレンジャー・LBO等も含む



### 当行アレンジ プロジェクトファイナンス・PFI

※ 2020年4月以降の取組み

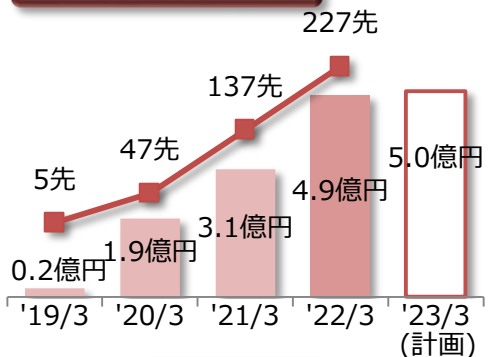


# 法人② ～法人ソリューション②～

パートナーとしての継続的な対話により、多くのニーズを発掘

事業者向けアドバイザー

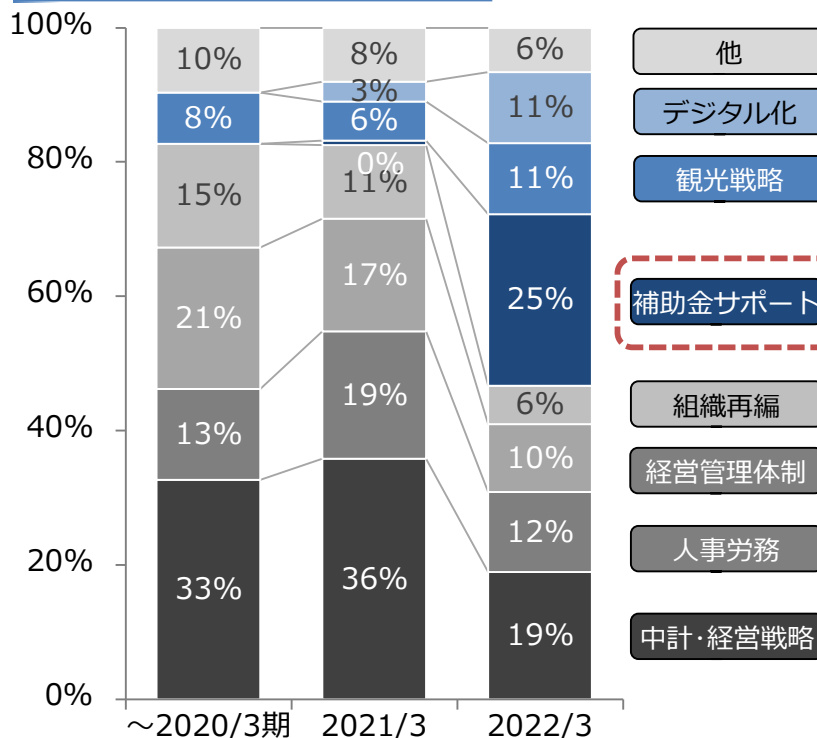
### 契約件数・役務利益



### 案件数



### 契約内容内訳



事業再構築補助金

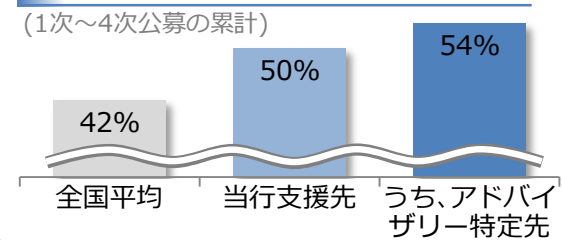
補助金申請 支援中

補助金申請 ニーズ有

アドバイザー 特定先

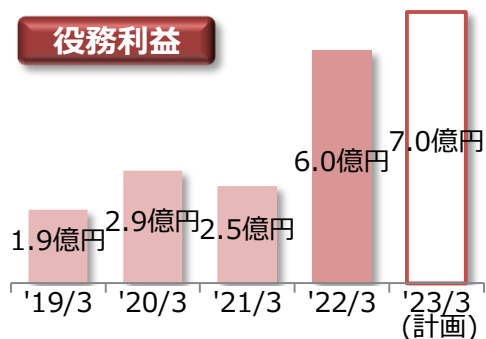
【支援実績】(1次～4次公募累計)  
 ■ 支援**455先** ■ 採択**197先**※  
 ※当行が経営革新等支援機関の立場で支援した件数

### 事業再構築補助金の採択率

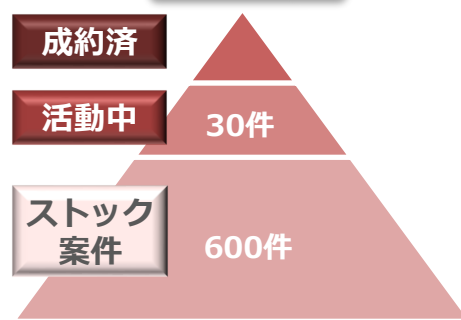


M & A

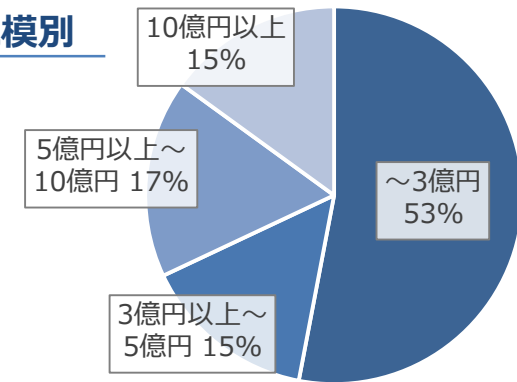
### 役務利益



### 案件数



### 売上高 規模別



※本件以外に事業承継に係る手数料収益を相続・信託部門で計上 (2022/3期 3億円)

## 地銀最大級の海外ネットワークを活用

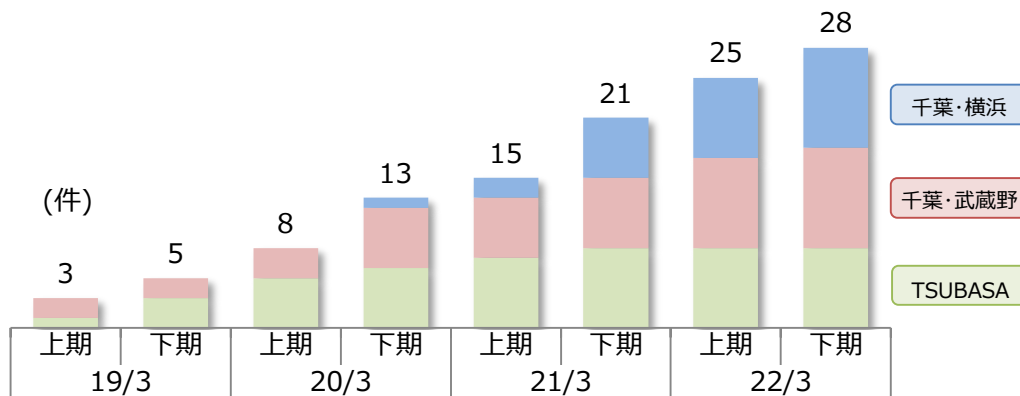
### 当行海外ネットワーク



### 提携行との協調融資(国際業務関連) 累計取組件数

2022/3下期  
主な取組み

取組時期	アライアンス	国	関係した海外拠点
2021/11	横浜	中国	横浜 上海支店
2021/12	武蔵野	タイ	当行 バンコク駐在員事務所・香港支店



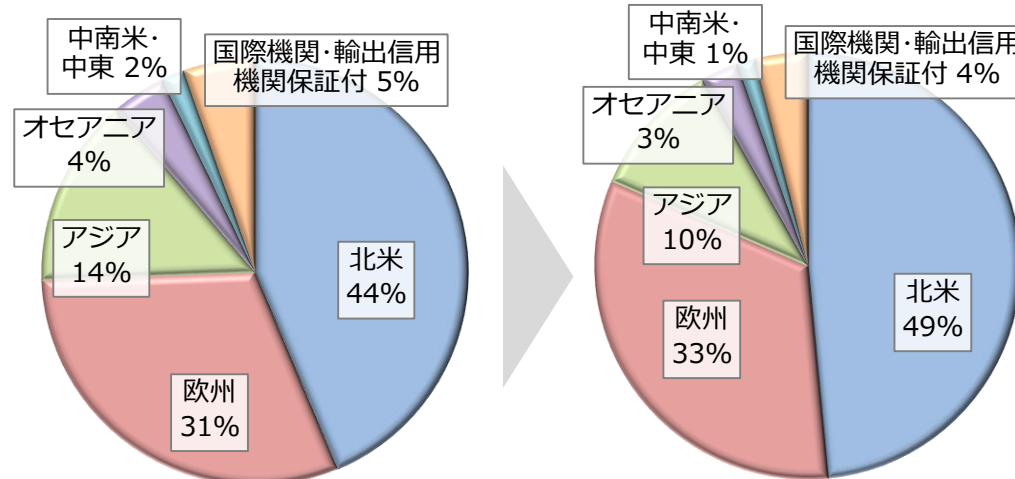
### 非日系与信額

※国内店・市場部門の非日系向け与信含む

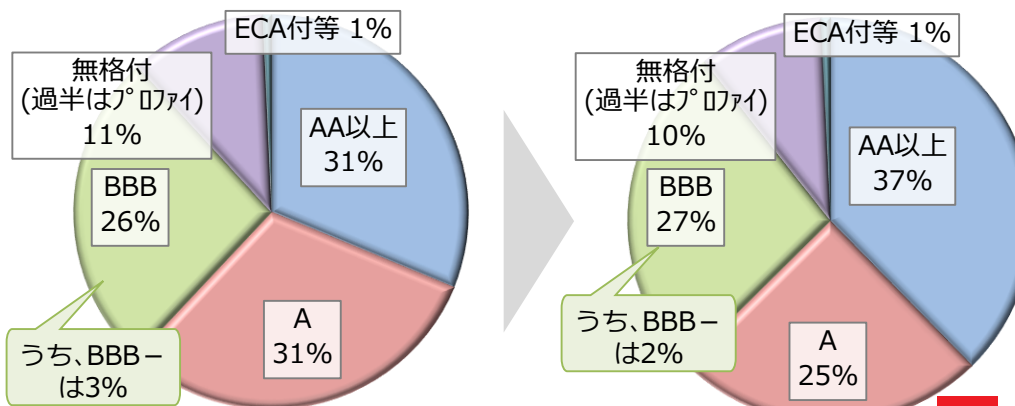
#### 地域別

2019/3 4,803百万米ドル

2022/3 5,141百万米ドル



#### 外部格付別

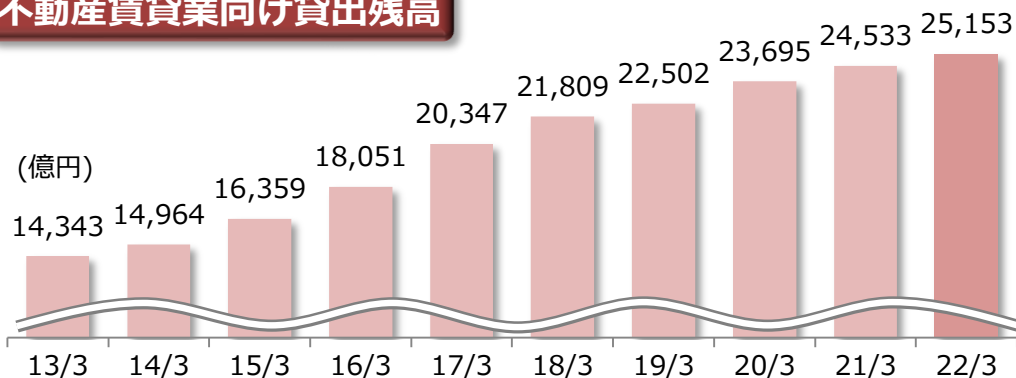


※S&P・Moody's格付の低い方

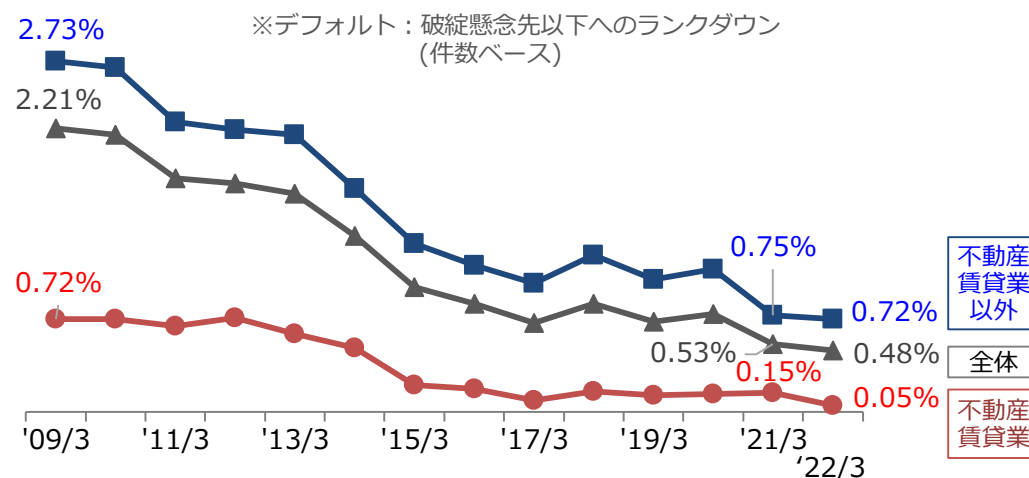
# 法人④ ～不動産賃貸業向け貸出～

## 不動産賃貸業向け貸出は順調に増加、信用リスクは低位を維持

### 不動産賃貸業向け貸出残高

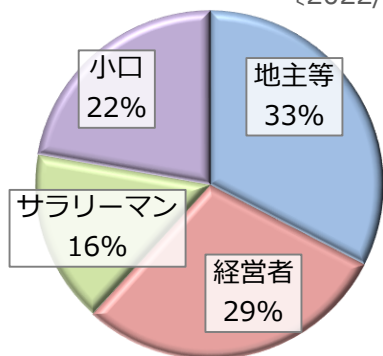


### デフォルト率\*

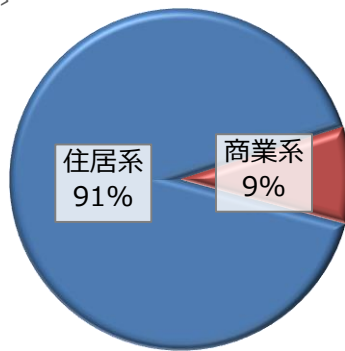


### 借入人属性別 割合

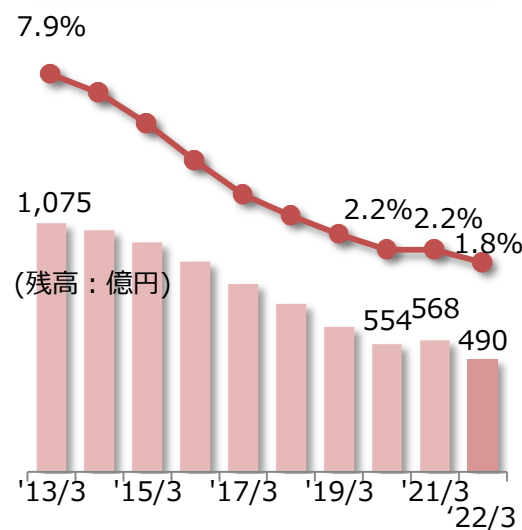
〔2022/3基準、件数ベース〕



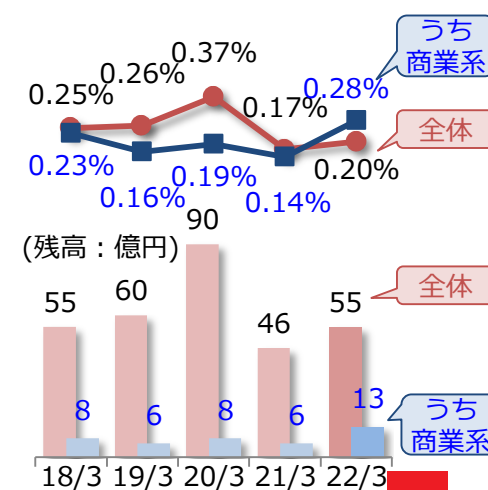
### 用途別 割合



### 不動産賃貸業 条件変更債権 残高・割合



### 不動産賃貸業 延滞債権 残高・割合



### 入居率

当行融資物件平均 **95.6%** (全国平均 83.3%)

### DSCR

当行融資物件平均 **148%**

DSCR：物件単体収支

(物件の元利金支払前キャッシュフロー ÷ 元利金支払額)

〔100%未満の場合、物件賃料収入で返済・費用を賄えない。〕

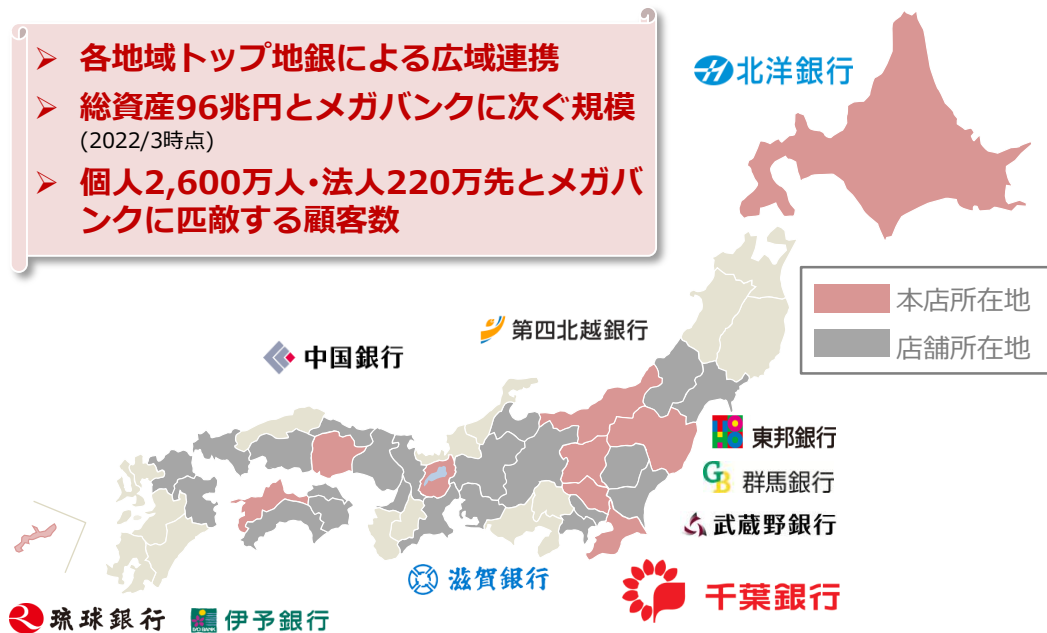
## 提携戰略



# TSUBASAアライアンス

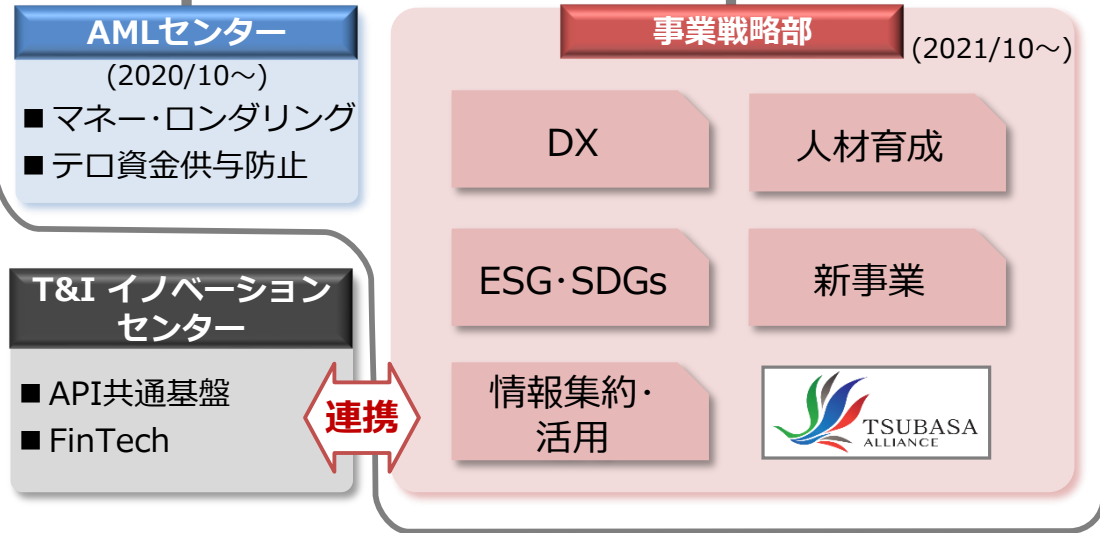
## 事業戦略部を設置し、参加行の知見を集約しながら連携の取組みを一層高度化

- ▶ 各地域トップ地銀による広域連携
- ▶ 総資産96兆円とメガバンクに次ぐ規模 (2022/3時点)
- ▶ 個人2,600万人・法人220万先とメガバンクに匹敵する顧客数



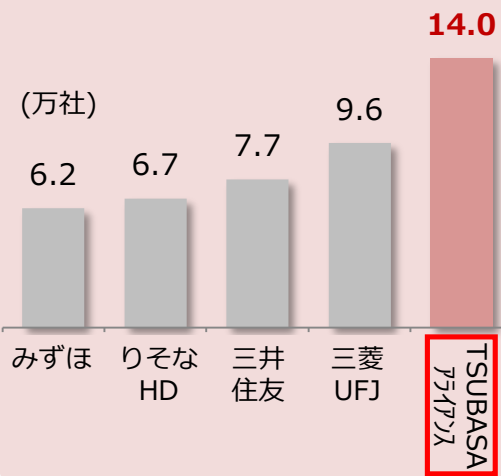
### TSUBASAアライアンス株式会社

- ▶ 各行に共通する**重要課題への対応、業務の集約**
- ▶ 各行が先行開発した**先進的サービス・機能の横展開**

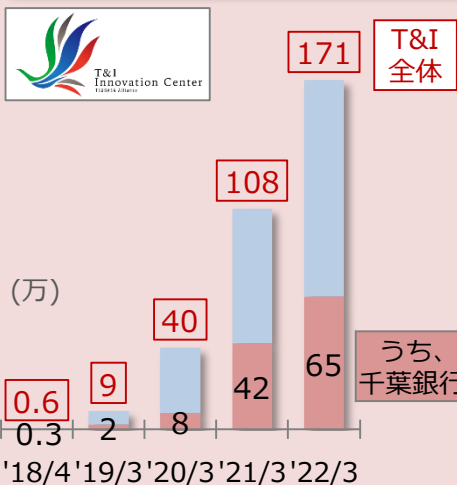


### メイン先数

出所：帝国データバンク  
「全国メインバンク動向調査 2021年」

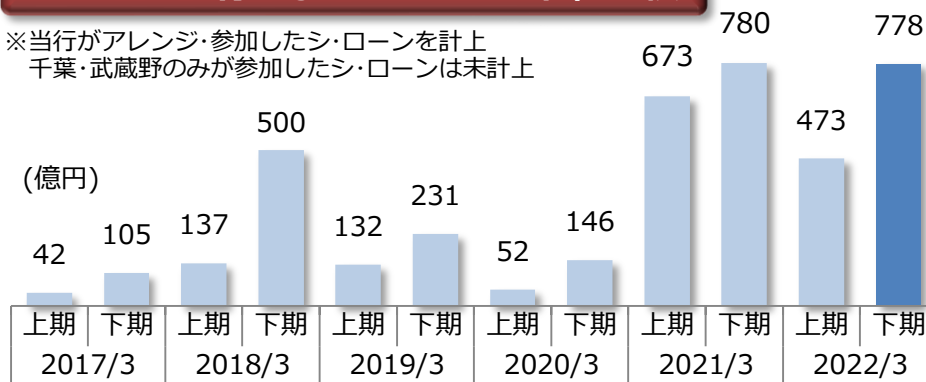


### 「T&I」API共通基盤の個人ユーザーID数



### TSUBASA行によるシ・ローン取組実績

※当行がアレンジ・参加したシ・ローンを計上  
千葉・武蔵野のみが参加したシ・ローンは未計上



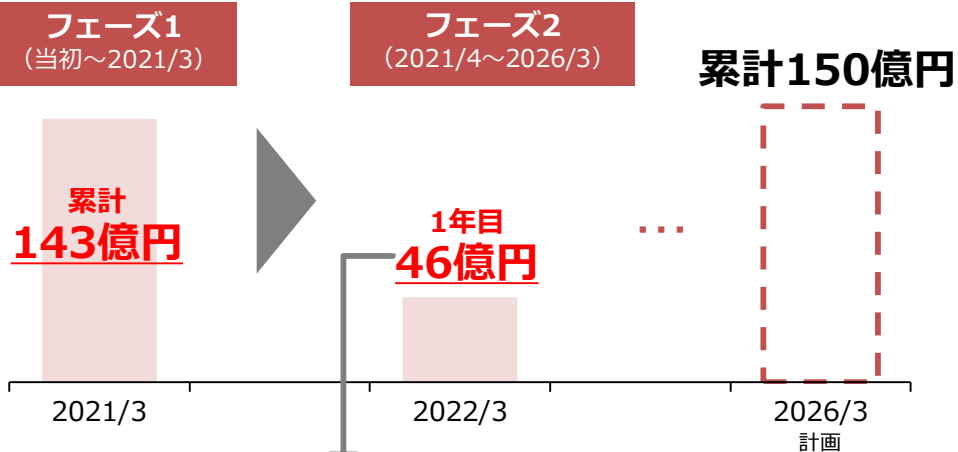


# 千葉・武蔵野アライアンス / 千葉・横浜パートナーシップ

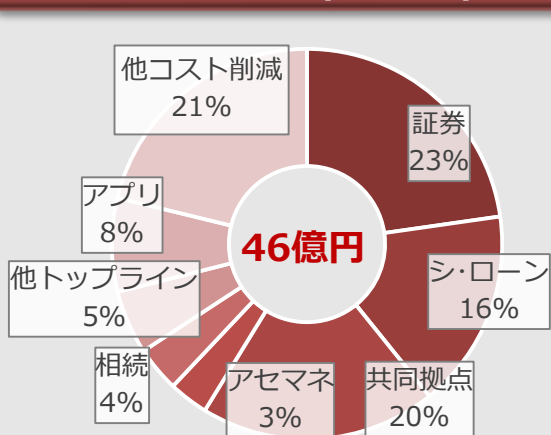
首都圏で隣接する地銀同士が課題やノウハウを共有することで付加価値の高いサービスを提供

## 千葉・武蔵野アライアンス

### 連携効果（両行合計額）



### 提携効果額内訳（両行合計）

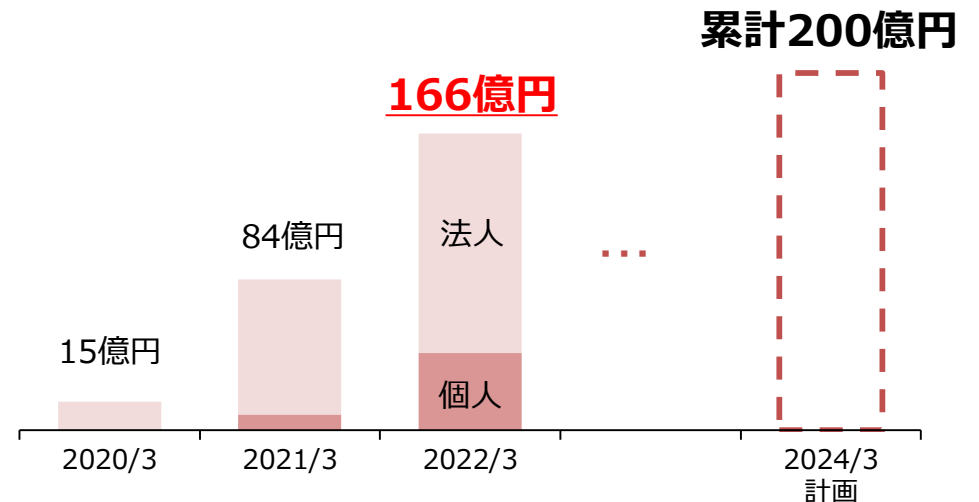


2022/1  
武蔵野銀行が **New**  
キャッシュレス  
加盟店事業参入

- その他
- 2021/1～アプリ導入
  - 2021/7～TSUBASAファンドラップ販売開始

## 千葉・横浜パートナーシップ

### 連携効果（両行合計額）



### サステナビリティにおける新たな連携

取引先支援 → SDGs フレンズ先や自治体向けに脱炭素関連セミナーの共同開催

取引先支援 → SDGsフレンズローンの取組み (両行合計累計取組件数 10,944件) ⇒2022/4 武蔵野銀行へ展開

カーボンニュートラル → 両行2030年のカーボンニュートラル目標達成に向けた、CO2排出量削減やカーボンオフセットのノウハウ共有

# サステナビリティ

長期志向で社会価値と経済価値の両立を目指す

持続的経営 = 「長期志向」 + 「社会価値（社会課題の解決） + 経済価値」

ESG課題への取組



ちばぎんグループSDGs宣言



# これまでの取組み・外部評価

## サステナビリティへの着実な取組み

	～2018	2019	2020	2021	2022
<b>態勢等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2017年 ESG推進委員会設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs宣言制定</li> <li>サステナビリティ方針制定</li> <li>統合報告書発刊</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs推進室設置</li> </ul>	
<b>環境</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>TCFD提言への賛同表明</li> <li>融資ポリシー改定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針制定</li> <li>気候変動情報の開示</li> <li>CO2排出量目標開示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サステナブル・ファイナンス目標設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO2排出量目標再設定 (2030年カーボンニュートラル)</li> <li>GXリーグ基本構想賛同</li> </ul>
<b>社会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2015年 地銀人材バンク</li> <li>2016年 寄付型私募債の取扱い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ESGインデックス投信の組成・販売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権方針制定</li> <li>フードバンク等との連携協定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TFTの導入</li> <li>企業行動指針の導入 (企業理念の改定)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TSUBASA ダイバーシティ &amp; インクルージョン宣言制定</li> </ul>
<b>ガバナンス</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2015年 経営諮問委員会設置</li> <li>2018年 CxO制導入 社外取比率1/3以上に引上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーポレートガバナンスに関する方針策定</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>譲渡制限付き株式報酬制度導入</li> </ul>	

### 外部評価

#### CDP気候変動スコア

邦銀として最高水準の「A-」を取得



◆ 世界平均：「B-」

	地方銀行	大手行等
A-	千葉	みずほFG
B	ふくおかFG 八十二	MUFG SMFG りそなHD
B-	1社	1社
C	1社	2社
F	多数 (未回答企業)	

#### MSCI ESG Rating

メガ3行と同水準の「A」を取得

2022 CONSTITUENT MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)

2022 CONSTITUENT MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数

2021



Sompo Sustainability Index



MSCI指数への株式会社千葉銀行の組み入れ、およびMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたは指数名称の使用は、MSCIまたは関連会社による株式会社千葉銀行への後援、推奨、宣伝ではありません。MSCI指数は、MSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCI指数の名称およびロゴは、MSCIまたはその関連会社の商標もしくはサービスマークです。

# 脱炭素社会の実現に向けて

千葉県全体のカーボンニュートラル実現に向け、当行・地域のお客さまに向けた取組みを推進

脱炭素への取組み

気候変動リスクの把握と適切な開示

当行の取組み

## 千葉県全体のカーボンニュートラル

地域のお客さまに向けた取組み

ビジネス機会

リスク抑制

サステナブル・ファイナンス

CO2排出量の把握・削減

脱炭素に向けたコンサルティング

事業性評価へのESG要素の取り込み

アドバイザー特定先を中心に取り組み

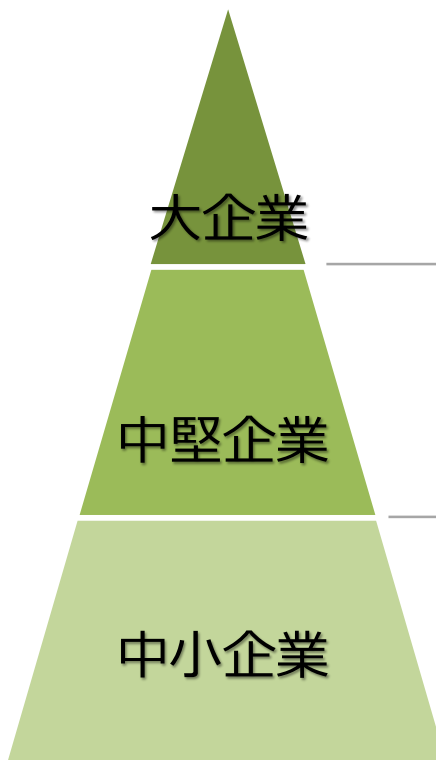


千葉銀行

ちばSDGs推進ネットワーク

### ファイナンス・ソリューション

■ お客さまの規模やニーズにあわせた商品を提供



- サステナビリティ・リンク・ローン
- グリーンローン
- ポジティブ・インパクト・ファイナンス

- 国際原則に準拠したファイナンス
- 外部機関（R&I等）が評価

- SDGsリーダーズローン
  - └ サステナビリティ・リンク・ローン型
  - └ グリーンローン型

- 国際原則に整合したファイナンス
- ちばぎん総研が評価（R&Iがフレームワークを評価）

- SDGsフレンズローン

- お客さまの事業活動とSDGsの目標を紐づけ
- お客さまのSDGs達成に向けた取組みを支援

2022/4

New

武蔵野銀行で取扱開始



### コンサルティング・ソリューション

■ お客さまのCO2排出量の把握や計測のための態勢を構築



CO2排出量可視化ツール



CO2排出量可視化コンサル  
(予定)

# サステナブル・ファイナンス

## サステナブル・ファイナンスを積極的に推進

### サステナブル・ファイナンス

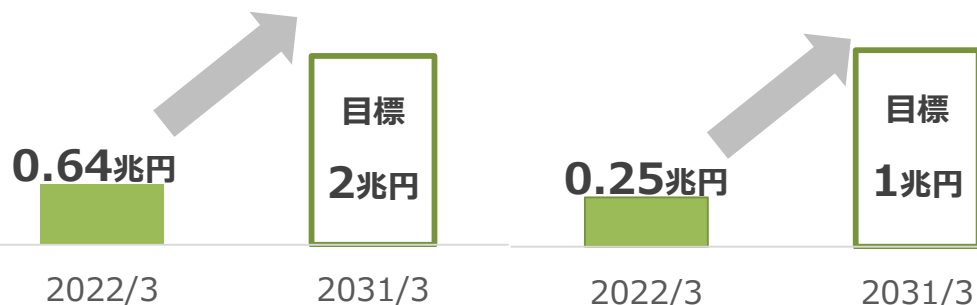
#### サステナブル・ファイナンス目標

サステナブル・ファイナンス※  
累計実行額目標  
(2019年4月～2031年3月)

**2兆円**

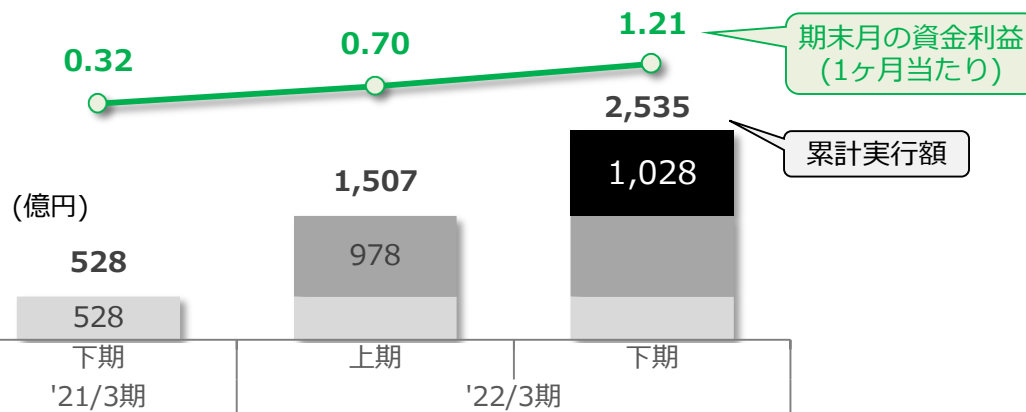
うち、環境系ファイナンス  
累計実行額目標  
(2019年4月～2031年3月)

**1兆円**



※環境課題や社会課題の解決を資金用途とするファイナンス  
(お客さまのESGやSDGs達成への取組みを支援するファイナンスを含む)

#### SDGsフレンズローン累計実行額・資金利益



### 再生可能エネルギー融資

■ 再生可能エネルギーの活用に取り組むお客さまを資金面でサポート

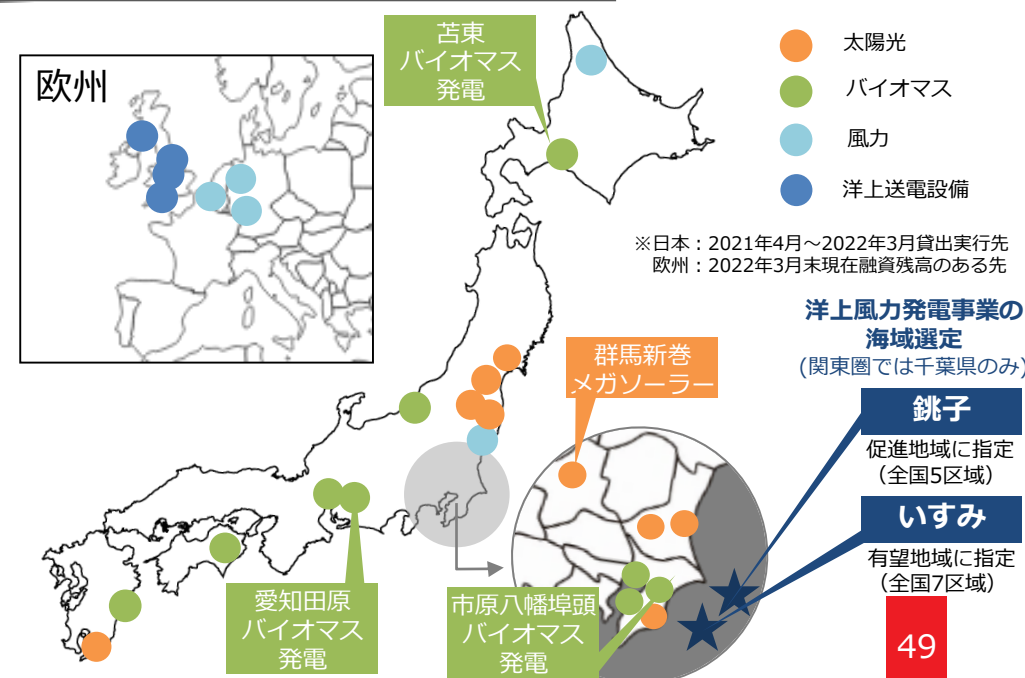
2022/3末	融資残高
太陽光発電	1,374億円
バイオマス発電	173億円
風力発電	143億円
水力発電	7億円
合計	1,697億円

※ 当行融資による  
再生可能エネルギー発電量 (累計)

- ・年間発電量 : 約677万MWh
- ・世帯数換算 : 約190万世帯
- ・CO2削減効果 : 約300万トン

※建設中のプロジェクトを含む

#### うち、プロジェクトファイナンス案件※



## E ～気候変動への対応～

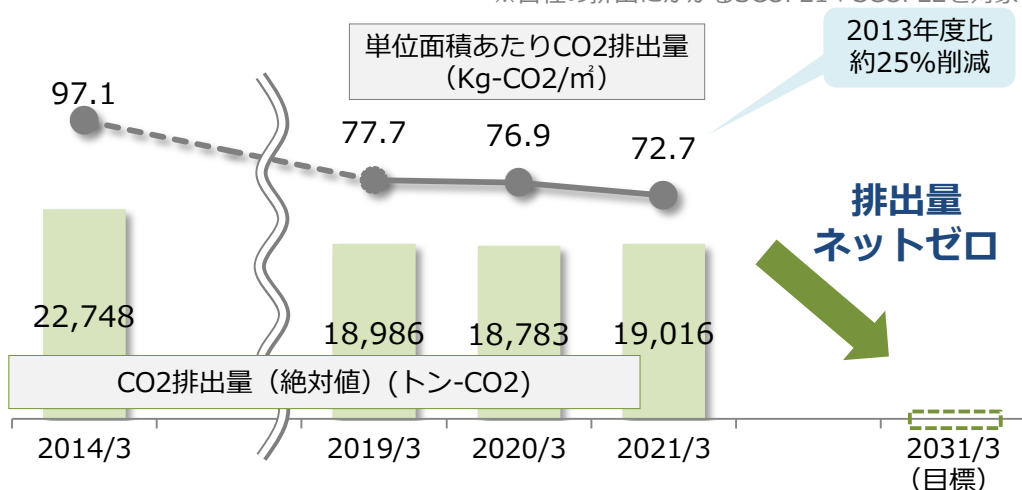
## CO2排出量目標を設定し、脱炭素に向けた取組を強化

## CO2排出量推移

**2031年3月までにCO2排出量ネットゼロ**  
(カーボンニュートラル※を達成)

New

※自社の排出にかかるSCOPE1+SCOPE2を対象



(トン-CO2)	2019/3	2020/3	2021/3
SCOPE1	2,591	2,493	2,425
SCOPE2	16,395	16,290	16,591
SCOPE 1・2 合計	18,986	18,783	19,016

(参考)

SCOPE3 (うち出張)	540	540	540
(うち通勤)	1,640	1,660	1,590

※ SCOPE3については、千葉銀行本体のみの概算値

SCOPE3のうち、  
上場企業等への融資に基づく排出量を部分開示予定

## 情報開示

■ 気候変動に関する情報を積極的に開示 (2019年12月TCFD提言賛同表明)

物理的  
リスク2050年  
まで

大規模風水災等

海面上昇

千葉県内における台風・豪雨等風水災による不動産担保の損壊等  
与信関係費用に影響する担保価値影響額 ※1

30～40億円

不動産担保の毀損および企業の事業停滞に  
基づく与信関係費用増加額を算出予定

## 脱炭素社会への移行

移行  
リスク2050年  
まで

与信関係費用の増加額 ※2

最大で140億円

当行貸出金等に占める炭素関連資産の割合1.1% ※3

石油・ガス  
石炭電力  
ユーティリティ

鉄鋼セクター追加予定

※1 2019年秋の「房総半島台風」「東日本台風」およびそれに続く大雨に伴う千葉県内における建物被災データ、IPCCのRCP2.6シナリオ(2℃シナリオ)およびRCP8.5シナリオ(4℃シナリオ)を前提に算出。千葉県内の不動産担保(住宅ローンを除く一般貸出のみ)が分析対象。

※2 IEAのSDSシナリオを前提に算出。

※3 TCFD提言が推奨する定義を踏まえたエネルギーおよびユーティリティセクター向け2021年3月末の貸出金、支払承諾、外国為替、私募債等の合計。ただし、水道事業、再生可能エネルギー発電事業を除く。



多様な人材の活用

ダイバーシティ推進

数値目標

	2021年 3月期	2022年 3月期	2026年 7月目標
リーダー職※以上に 占める女性比率（人数）	24.4% (453名) 2021/4/1現在	25.4% (465名) 2022/4/1現在	<b>30%</b>
有給取得率	70%	72%	<b>80%</b>
男性育児休業取得率	112.7%	102.9%	<b>100%</b> 継続

※支店長代理など、部下をもつ職務にある職員及びそれと同等の地位にある職員であり、担当業務の責任者として、組織マネジメントの職責を担う者。

外部評価



経済産業省・  
東京証券取引所  
「なでしこ銘柄」選定

5年連続



プラチナ  
えるぼし取得

銀行初



TSUBASAダイバーシティ&インクルージョン宣言

地域の持続的な成長を実現するため、ダイバーシティ&インクルージョンを競争力の源泉と位置づけ積極的に取り組むことを宣言（2022年4月制定）



New

地方創生

小湊鐵道沿線エリア特集（2022年4月28日始動） **New**



小湊鐵道 X C-VALUE  
 ◎小湊鐵道夜トロッコ特別企画 ◎小湊鐵道カレー ◎石神ひまわりプロジェクト  
 ◎グランピング施設でのサウナ ◎販入りチーズケーキ ◎サッカークラブ支援  
 ◎タイ料理・タイ野菜収穫体験 ◎ブルーベリー・里山体験 ◎里山サイクリング  
 ◎コンセプトカフェ・里山アロマ ◎シェアキッチン・商店街弁当 ◎里山サイクリング

小湊鐵道沿線の新商品、  
新プロジェクトが続々スタート。



11の新商品・新プロジェクト

- トロッコ乗車イベント
- ひまわり畑
- 里山サイクリング
- サッカー 等

観光・新事業による  
地域活性化を狙う

ちばSDGs推進ネットワーク

「ちばSDGsパートナー登録制度」  
登録企業数  
**945社**  
(2022年1月～2月)

他都道府県の認定制度登録数  
No.1 長野県 1,329社  
No.2 熊本県 1,012社

千葉県は募集開始2カ月にして  
全国トップレベルの登録数

2022年3月25日時点の公表情報に基づく集計



ちばSDGsパートナー  
登録制度の制定

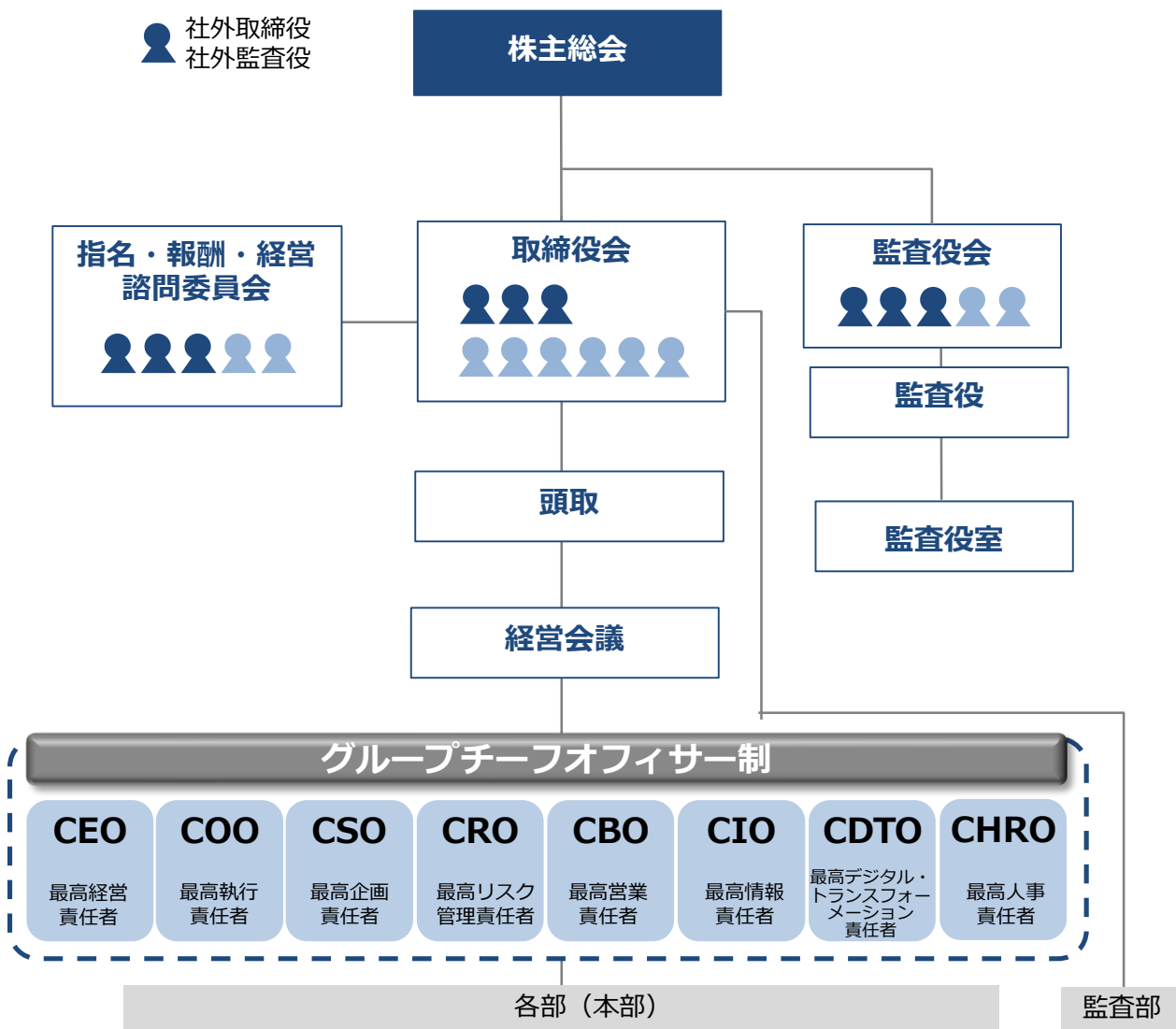
千葉県内  
お客さま

- SDGs普及や啓発、伴走支援
- ネットワーク会員同士の情報共有・連携

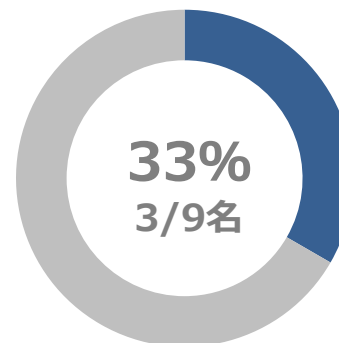


G ～ガバナンス～

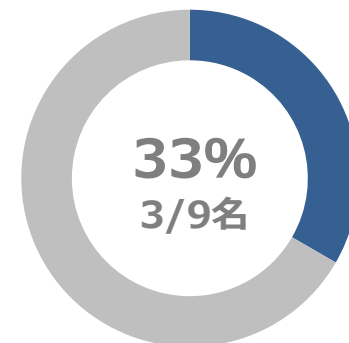
グループガバナンスの高度化



<独立社外取締役比率>



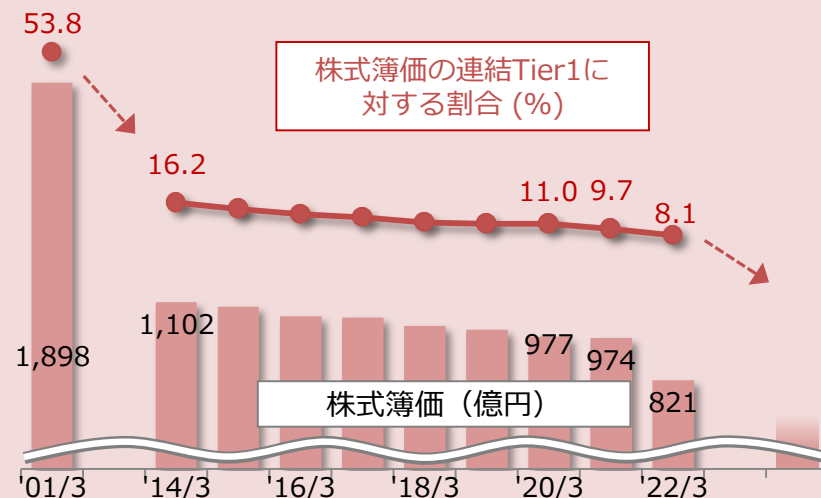
<女性取締役比率>



政策保有株式簿価\*とTier1に対する割合（連結）

※その他有価証券で時価のあるものの取得価格

【政策保有に関する方針】  
リスク・リターンを踏まえた経済合理性や株式価値の将来見通しを踏まえ、保有意義の妥当性を適宜検証



# 資料

# 千葉県について

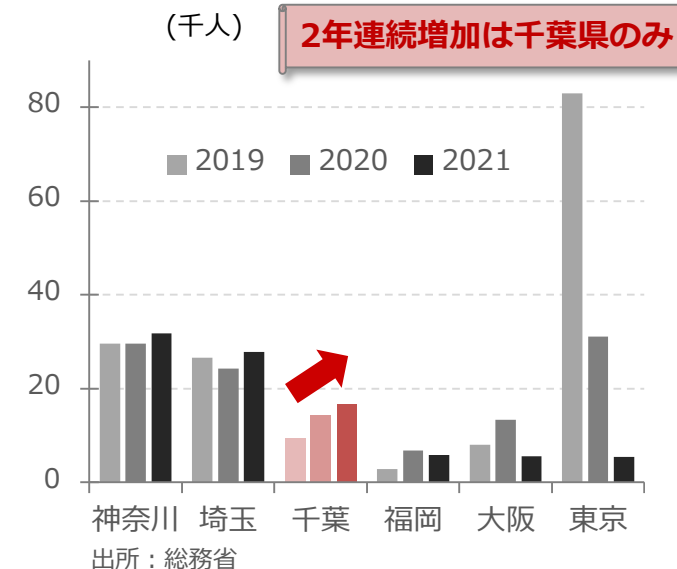
## コロナ禍においても、千葉県の不動産価格は上昇

### 千葉県の主要経済データ



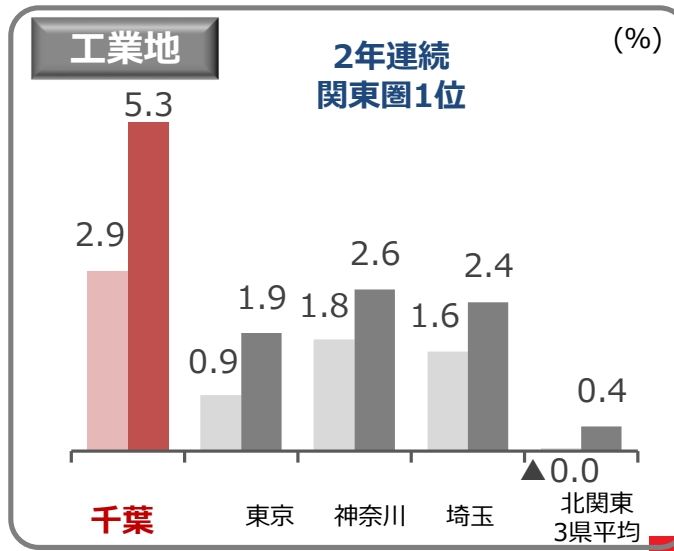
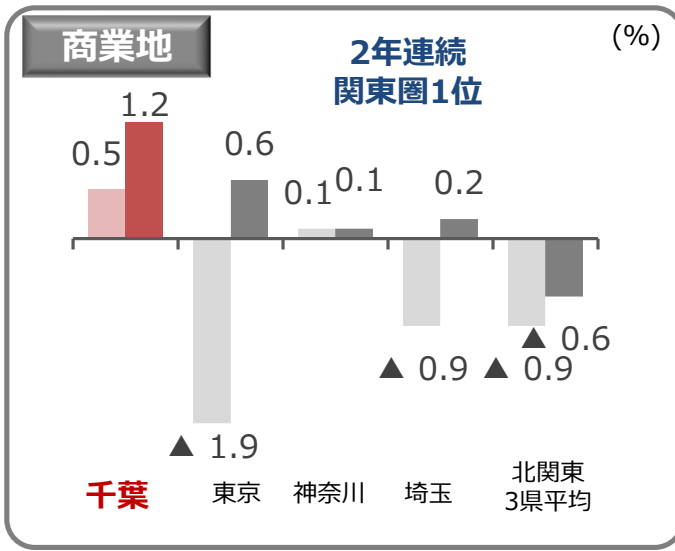
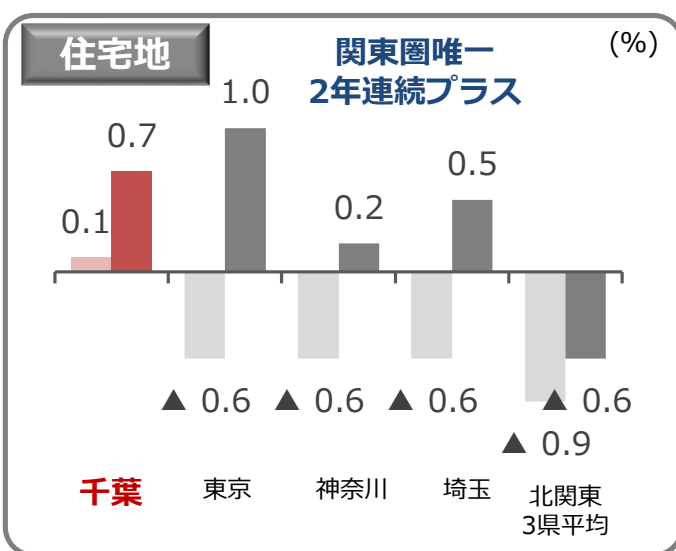
出所：総務省統計局「国勢調査」（2020年度）、内閣府経済社会総合研究所「県民経済計算」（2018年度）

### 都道府県別転入超過数



### 公示地価（前年比変動率）

■ 2021年1月 ■ 2022年1月



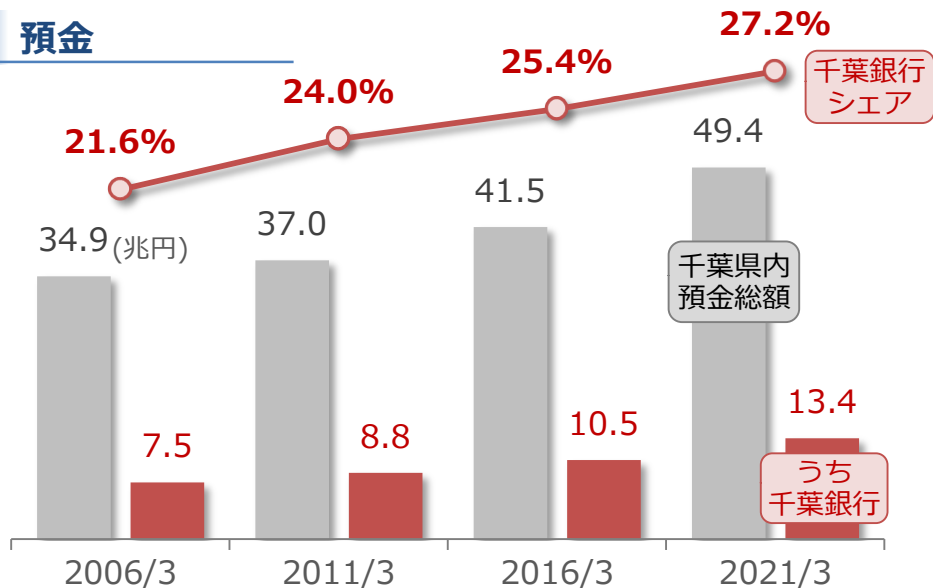
# 千葉県内シェア・世界の銀行との比較

千葉県で圧倒的な営業基盤を確立 / 世界各国の最大銀行と比較しても相応の規模

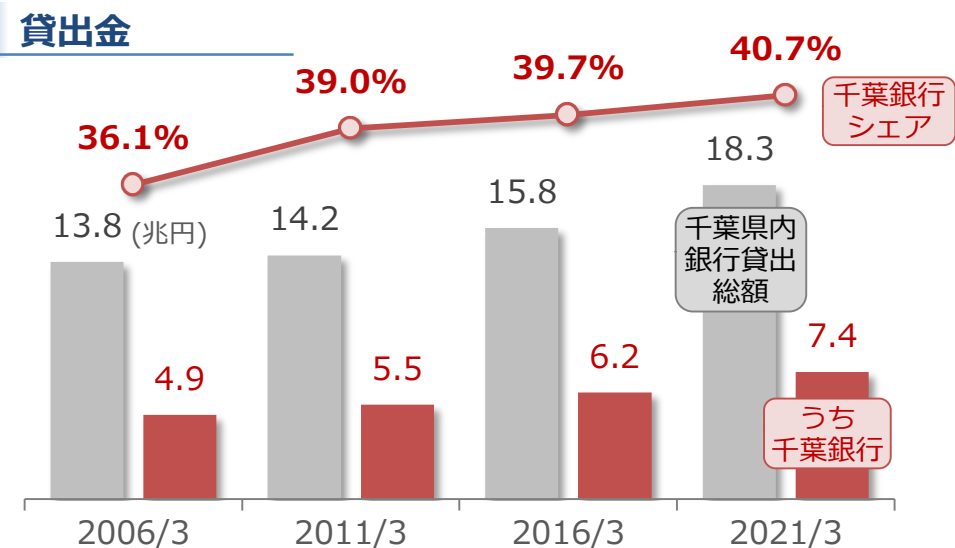
## 千葉県内 残高・シェア

出所：金融ジャーナル

### 預金



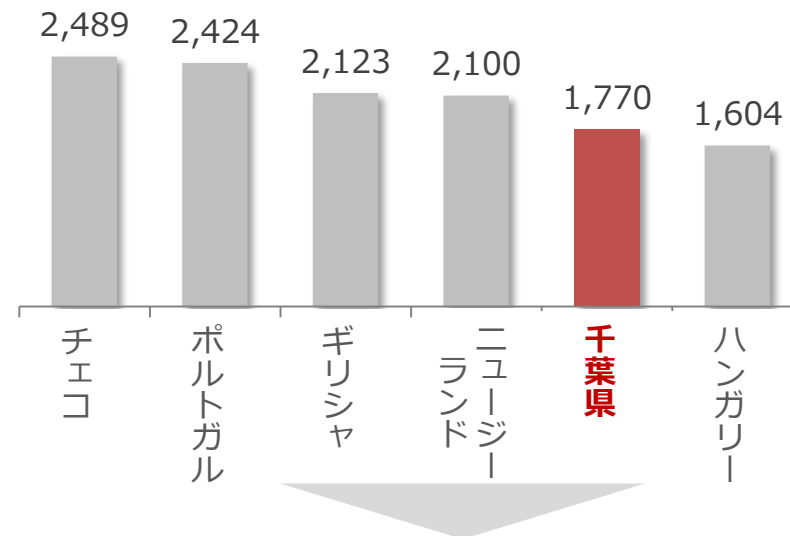
### 貸出金



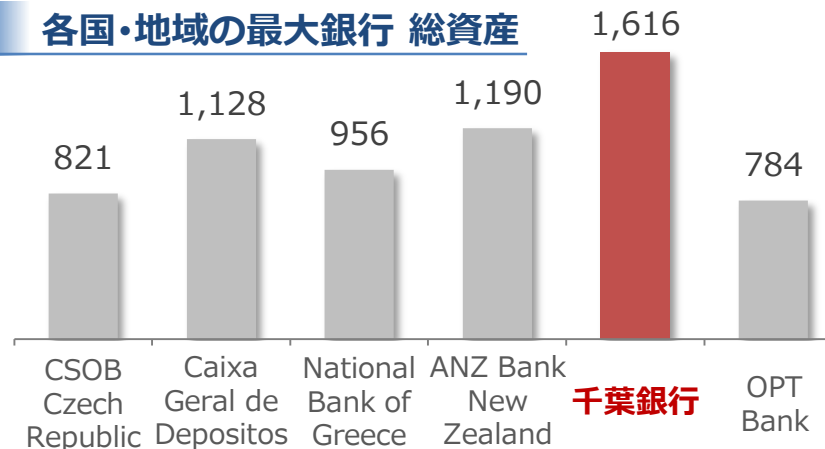
## 千葉県の経済規模 (世界各国と比較) 千葉銀行の総資産 (最大銀行との比較)

### GDP

(億ドル)



### 各国・地域の最大銀行 総資産



出所：主要国GDPはIMF World Economic Outlook、千葉県GDPは内閣府統計(主要国は2018年1～12月、千葉県は2018年4月～2019年3月のデータ)国内最大銀行の総資産はThe Banker(2021年版)

本資料に関するご意見、ご感想、お問い合わせは  
下記 I R 担当までお願いいたします。

株式会社 千葉銀行経営企画部（I R 担当）

Tel : 043-301-8459

Fax: 043-242-9121

E-Mail: [ir@chibabank.co.jp](mailto:ir@chibabank.co.jp)

本資料は、情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。

本資料に記載された事項の全部又は一部は予告なく修正又は変更されることがあります。本資料には、将来の業績にかかる記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。